

源流圖說

一





上より下へは書きしり多分母申に限りしるる位もあひ人  
 のたむひ 以て種々の病りしりて失をぬ するはれを  
 ぶるもあひしりしりも 以て我々の矢のさるもあひる 古のまゝと  
 してを樹きしりも かくしては ありしり ありしり ありしり ありしり  
 紫いしり山賊しり 幸ひ 延喜のしり 振るも ありしり ありしり ありしり  
 流るも 姫娶のしり ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり  
 も ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり  
 りの 棧しりも ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり  
 るは 弘化のしり ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり ありしり

杉野舟名 弘義

源語圖書卷之一目錄

桐壺

世即更衣

桐壺

馬道

所着袴

鞆串

火葬

弘徽殿

壺前栽

宿直申

儲君

打掃渡殿

後平殿上局

内藏寮 納殿

串

贈位

所領上調度

弘徽殿上局

夜中殿

朝餉 付市展

五坊

鴻臚館

賜諡姓

東宮元服 旬殿

市展殿 併子

冠者座 引入法

理髮

侍所

祿

給祿

大房子市展

讀書始

藤壺

五重塔

穀倉院

長屋棟

之服

拜

一重源氏座次

賜馬鷹

折櫃 藤物

初元法

左馬寮

市階

市昌所

山池

長傷

校書殿

塚聖

修理縣

源諸回抄



桐壺の巻

海老の市討りの世所馬衣あつてさうなはははけける中子

世所馬衣しるも子 増實人上の燕寝さうなははけける中子

上九と妃二人以上夫人三人以上 増實四人以上 増實五人以上

も中し此三名増え世所馬衣所し馬衣と稱す 世所馬衣と稱す

世所馬衣と稱す 世所馬衣親王 攝關大臣の世所馬衣を原馬衣と納言の

世所馬衣 天皇の御孫の御孫

まゝの巻

儲戴のたつとさうなり 履申天皇記云之平春三月己酉

五瑞苗別皇子為御孫云云なりと五坊後太子馬衣

稱す奉致平しなり







年中行事畫卷

渡殿



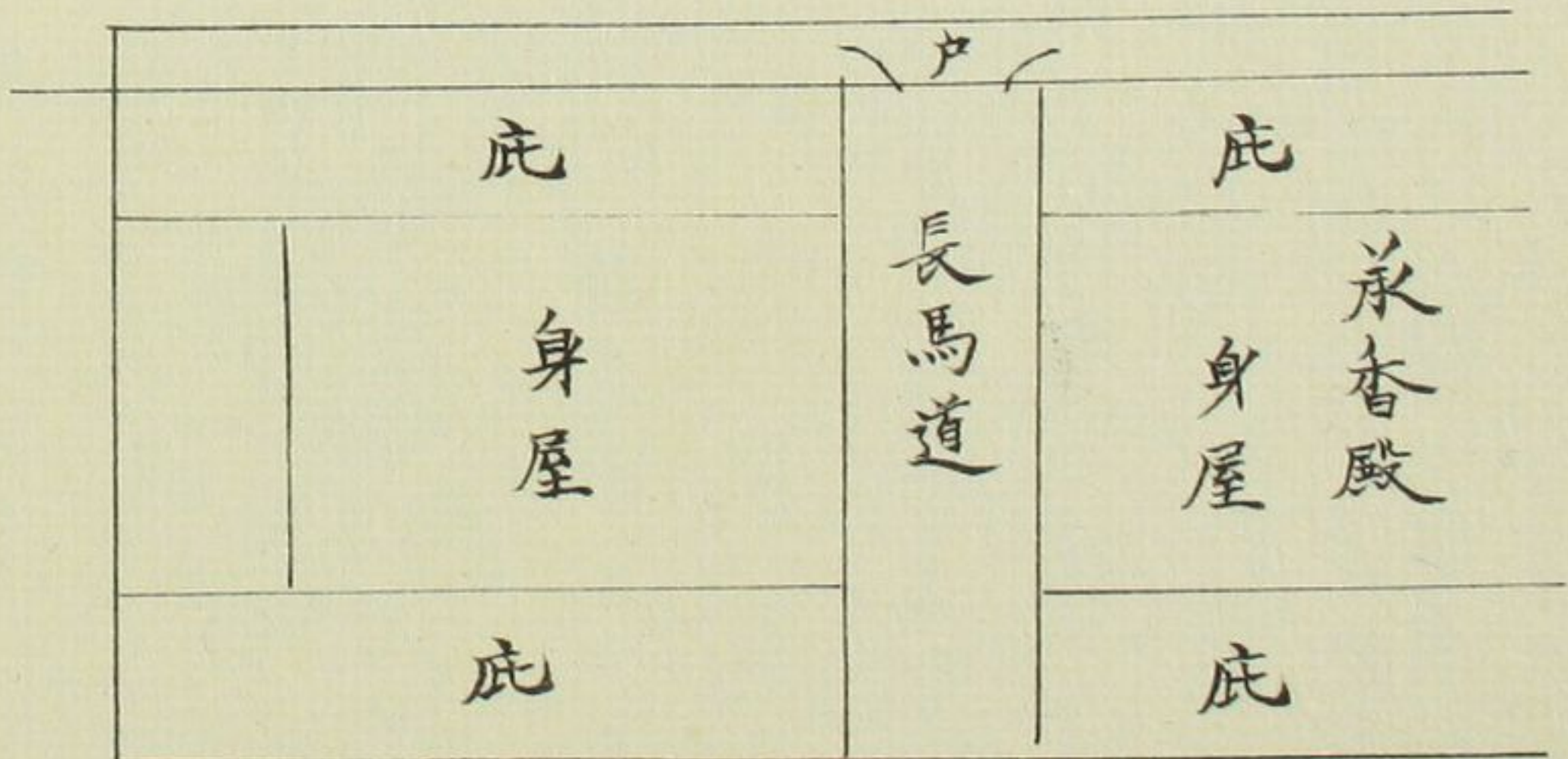
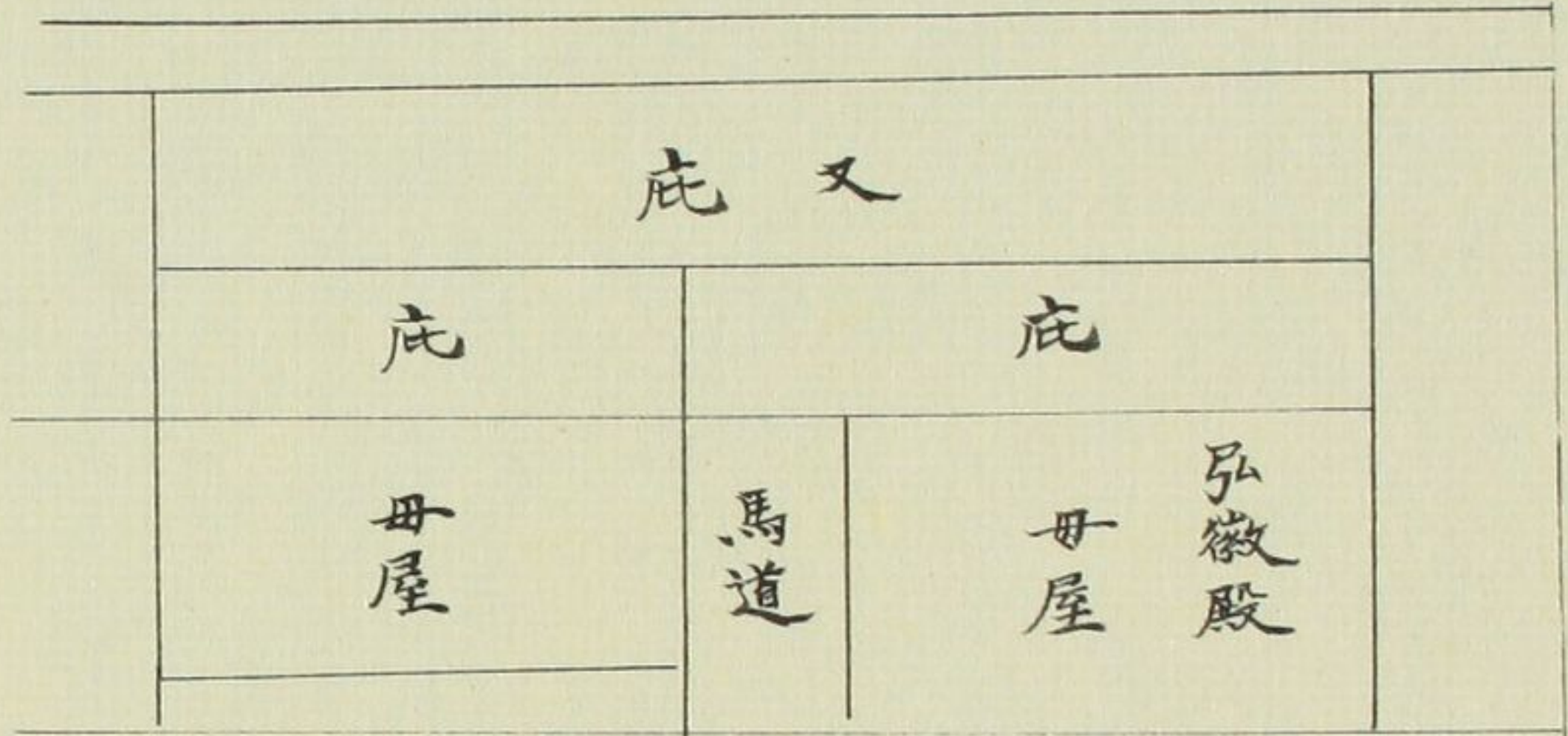
同

反渡廊





馬道之圖



後序殿の造りよりさびしきものも更衣のきしきもはしき  
 ころころとひきひきとては幸ねと云ふは

後序殿を造る殿のしりああり 費用とらふと后女御のま

さびしきものも同殿のしりああり 延喜雜事云凡

車輦車土入内重者此限費用 日本記畧云凡三盗入

弘徽殿せ御費用

上局を后女御費用よりと上の上なり 法皇殿のしりああり弘徽

殿御用の上りけねと申付とも 桐壺の上局をせしめられたる

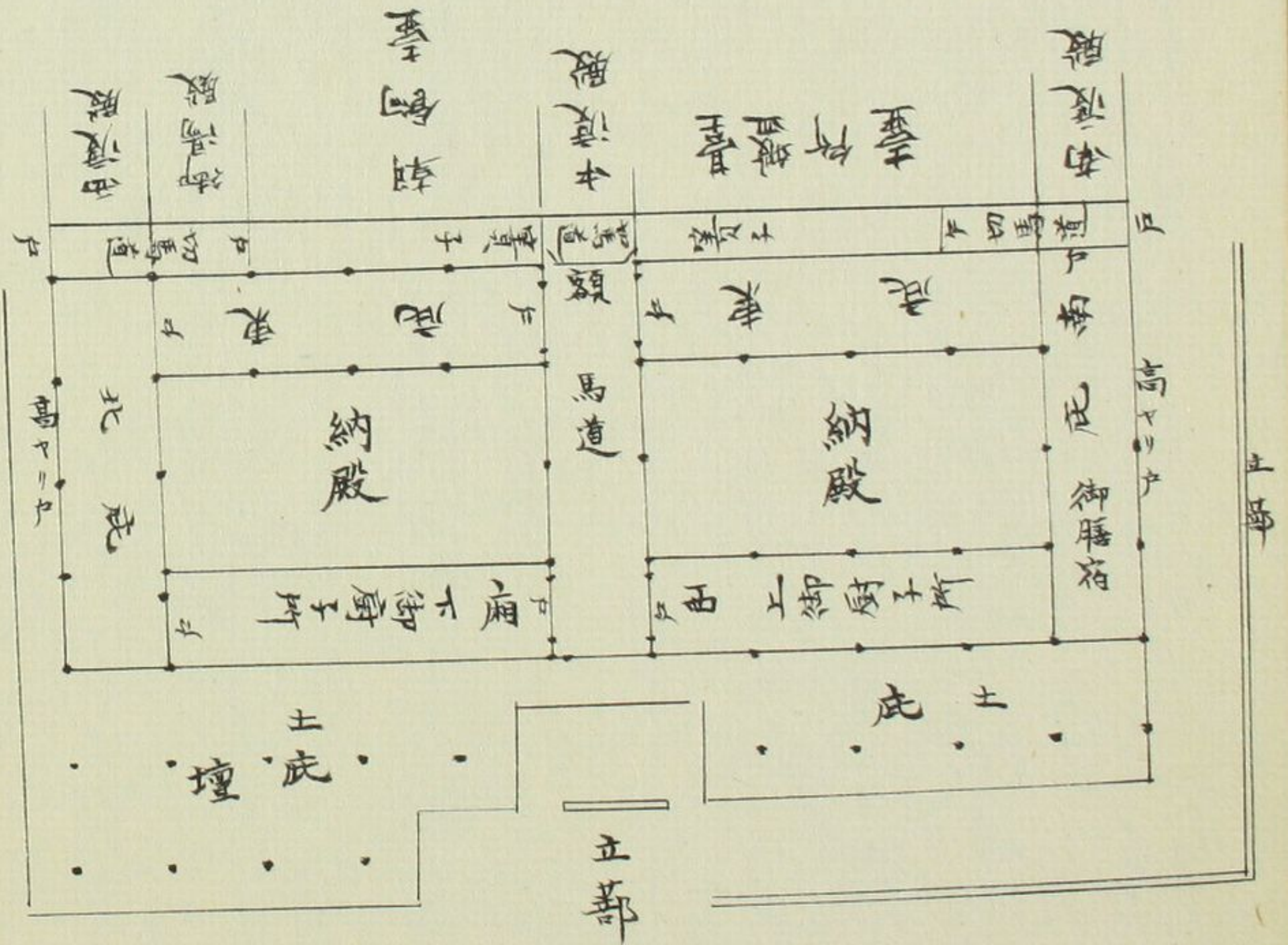
橋本殿のしりあありと云ふより 不知物流ら先帝の法時子女を后

の世にふつて御用りまのしりあありと云ふより 御用りまのしりああり

るともふつて御用りまのしりあありと云ふより 御用りまのしりああり

後涼殿之圖

清凉殿



考みる三子なり 延長二年八月廿九日 延長二年八月廿九日 延長二年八月廿九日

市着袴の深袴を奉りて 延長二年八月廿九日 延長二年八月廿九日 延長二年八月廿九日

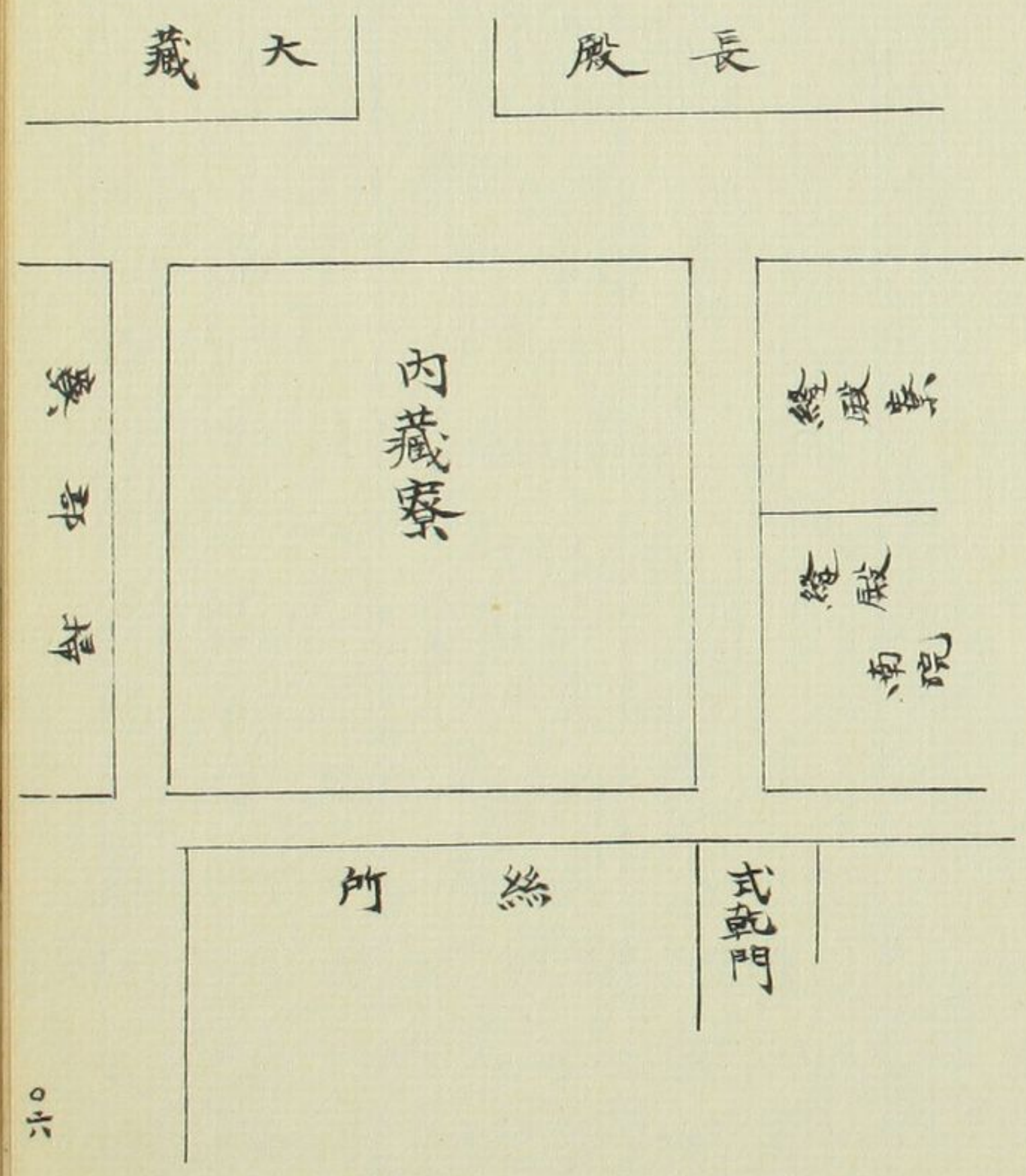
西宮記 延長二年八月廿九日 延長二年八月廿九日 延長二年八月廿九日

昔并備之畧長秋記長承三年八月廿二日大宮大天兒  
 着袴畧若君出相異裝束盛衣管着直衣步衣草衣濃袴  
 不具指貫師能扶持大納言結腰少輔令着直衣如常人  
 着不着指貫時引直衣物可尋此後居前物

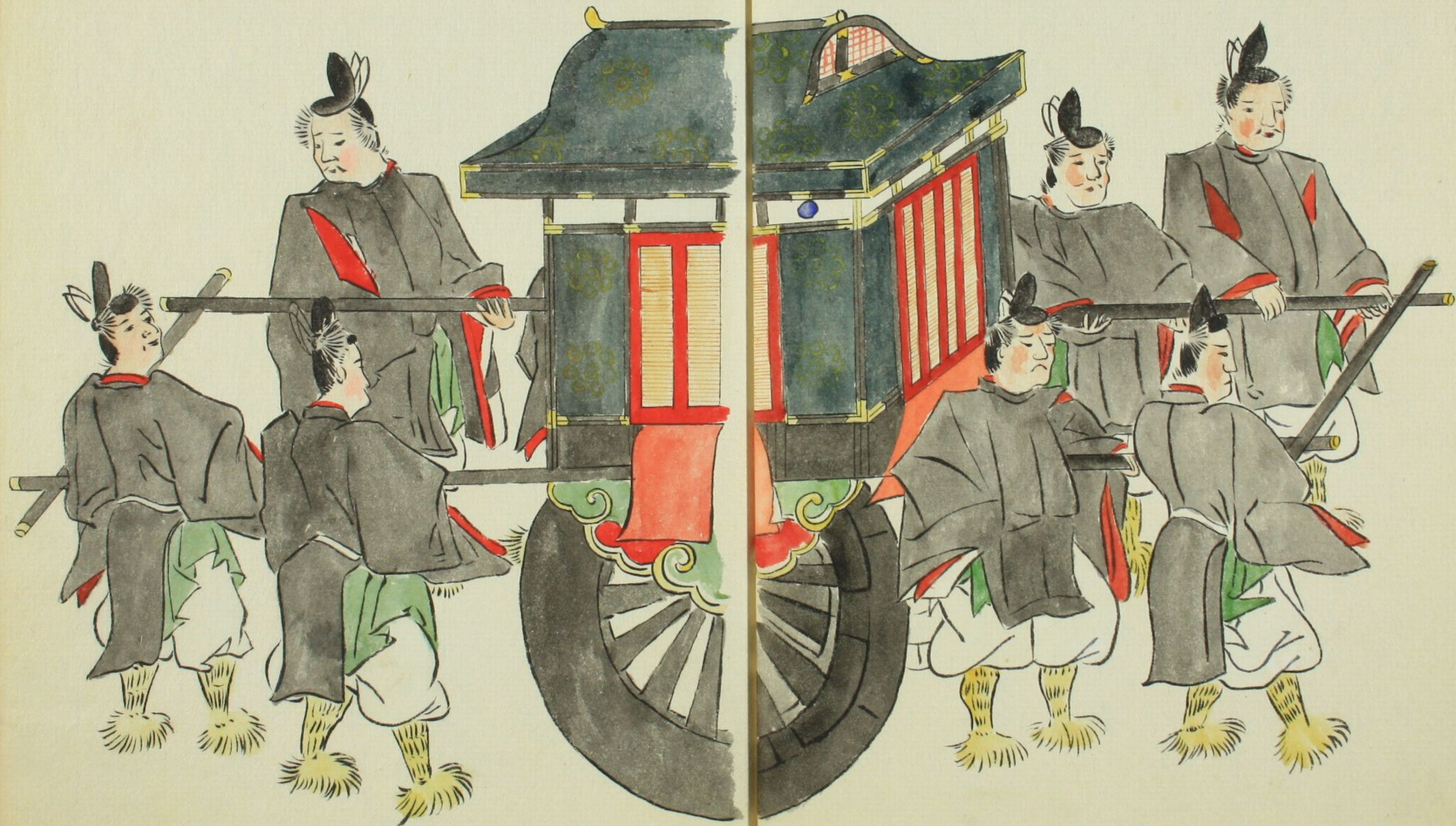
弘法大師畫形之像



内藏寮之圖







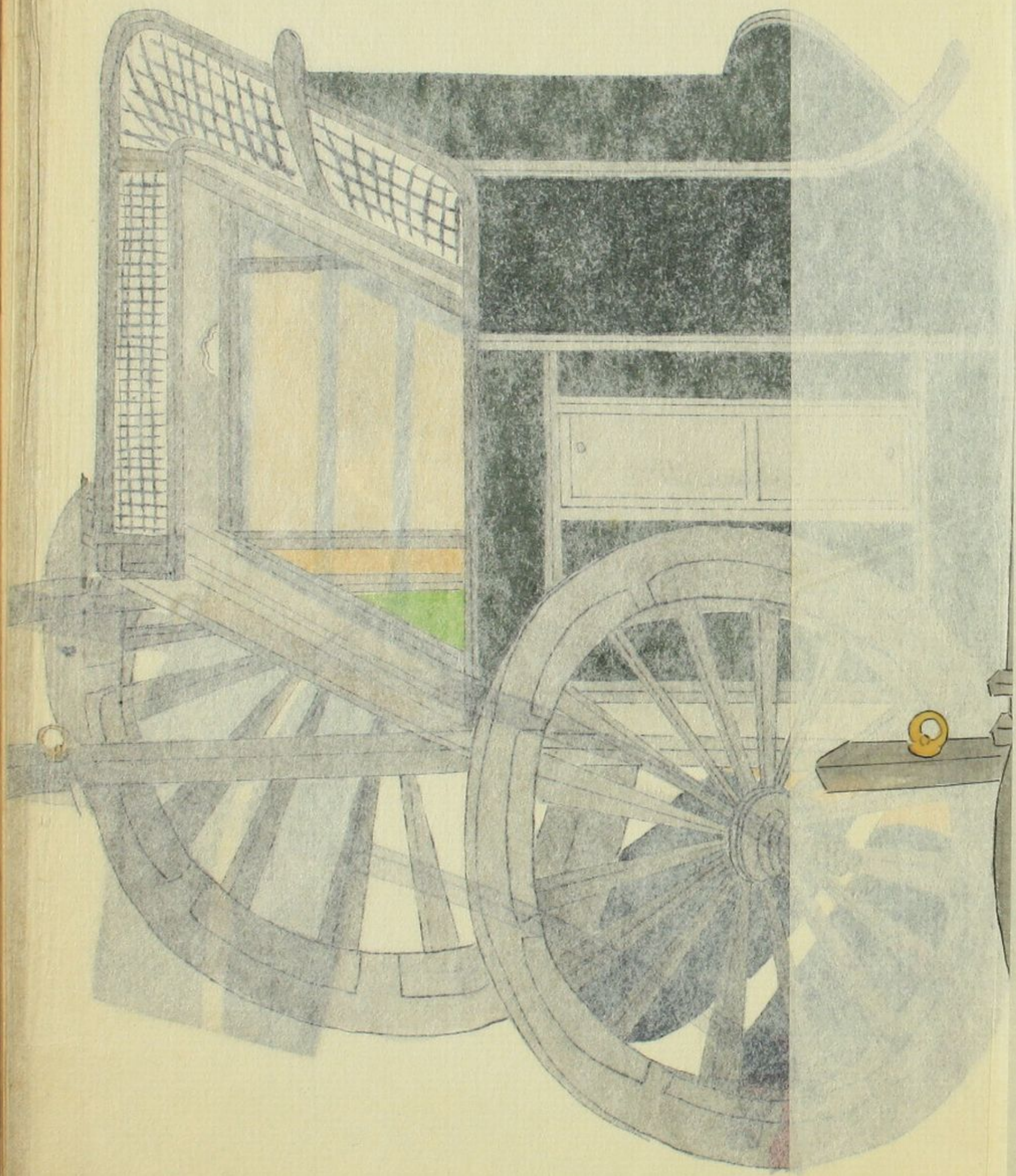
天子之珍物也見在

大葬之文武天皇三年十道照和尙之葬也  
持統天皇之大葬也  
多古葬之例也

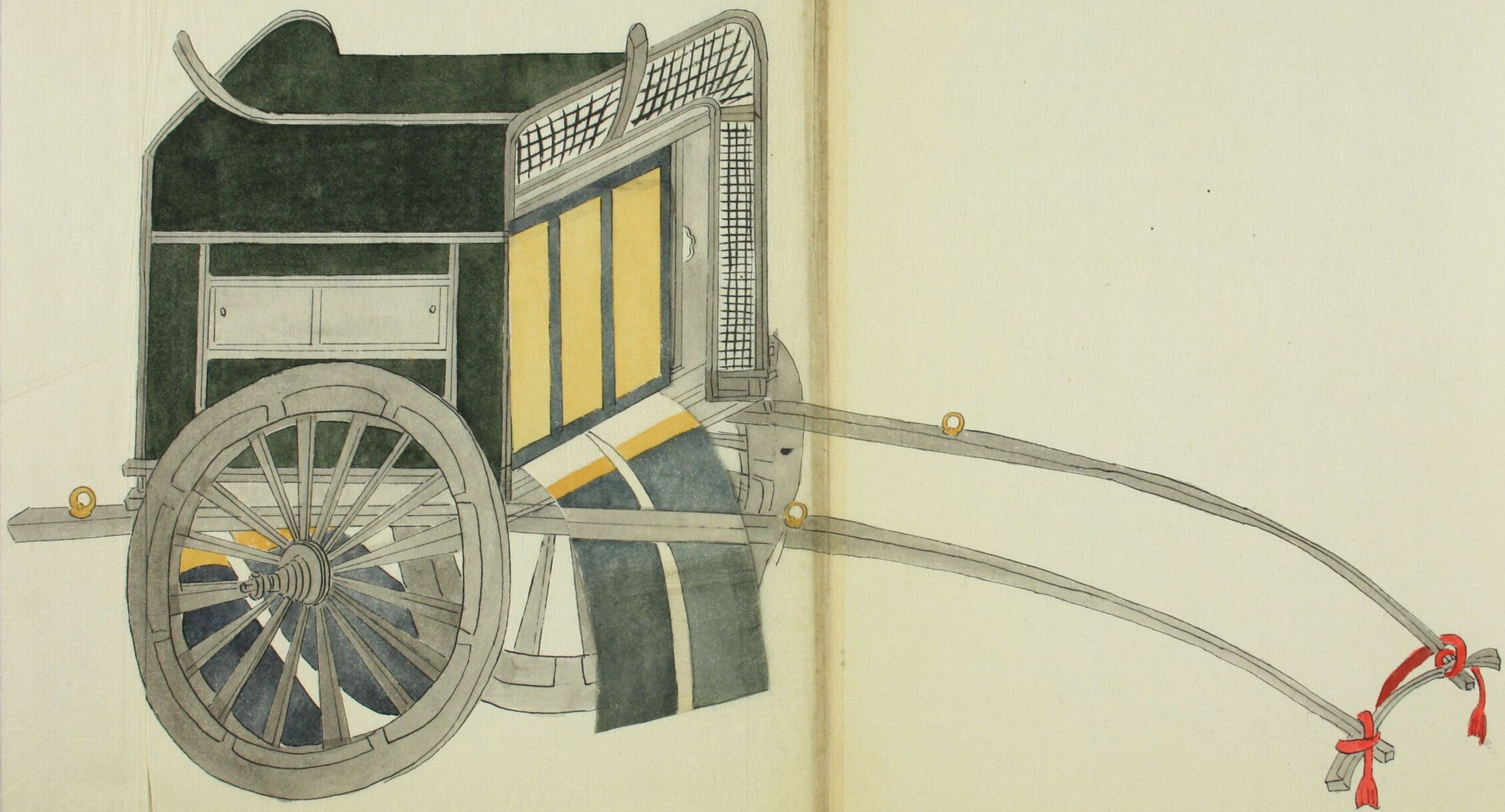
多古葬之例也

之位乃位之贈給也

葬位 儀式云葬日遣使二人勅使到門外喪家設榻  
二基於殯宮堂上北回東上前立高机一基其上置管  
訖喪家行事者開門左右相分迎之勅使二人  
人持依次就座勅使一人宣制其詞略訖行事者二人  
相共進一人留机邊一人受位記訖納管訖共昇机進  
置靈柩前訖復本位勅使下座舉哀三度喪家答哭勅  
使引出靈柩即奈 新儀式之後宮女官天皇外戚男女



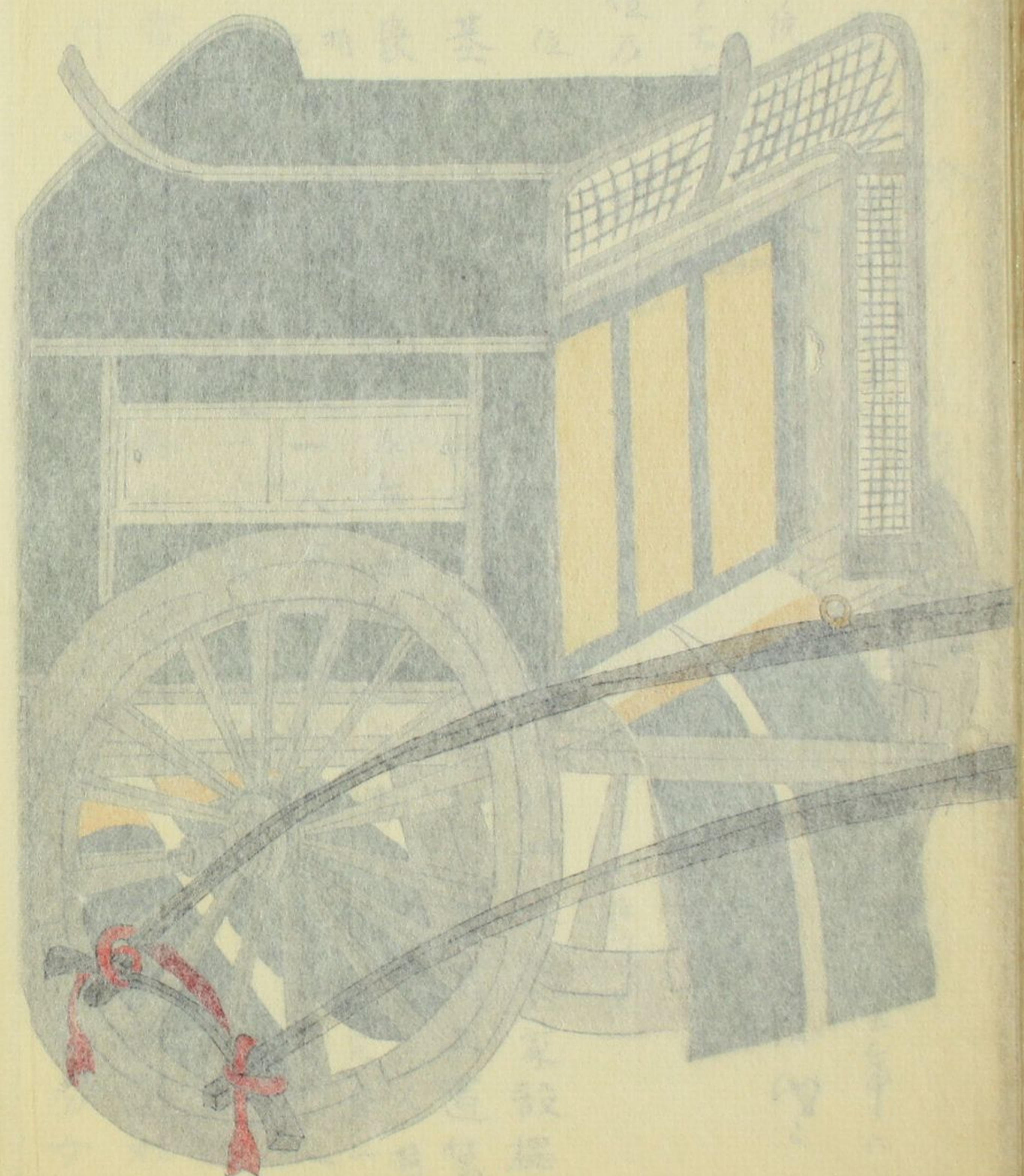




置靈柩前訖復本位勅使下座舉哀三度喪家皆哭勅  
使引出靈柩即奈新儀式之後宮女官天皇外戚男女



置靈柩前訖復本位勅使下座舉哀三度喪家皆哭勅  
使引出靈柩即祭 新儀式之後宮女官天皇外戚男女



間蒙贈位之恩 考ふに本社の比譽を思ひ儀も有

るに唯贈位の宣命をよみてしるす

弘徽殿ニ楊ウの記

弘徽殿延喜中宣武作西廊殿西宮記作洪輝又弘輝

后女御の御子珍不殿ヲ清涼殿の北ニあり

裏松家の岡考レ証スにシえルにテ因テ置ルにシたリ

市ノ中ニありシとシてシめルにシたリ

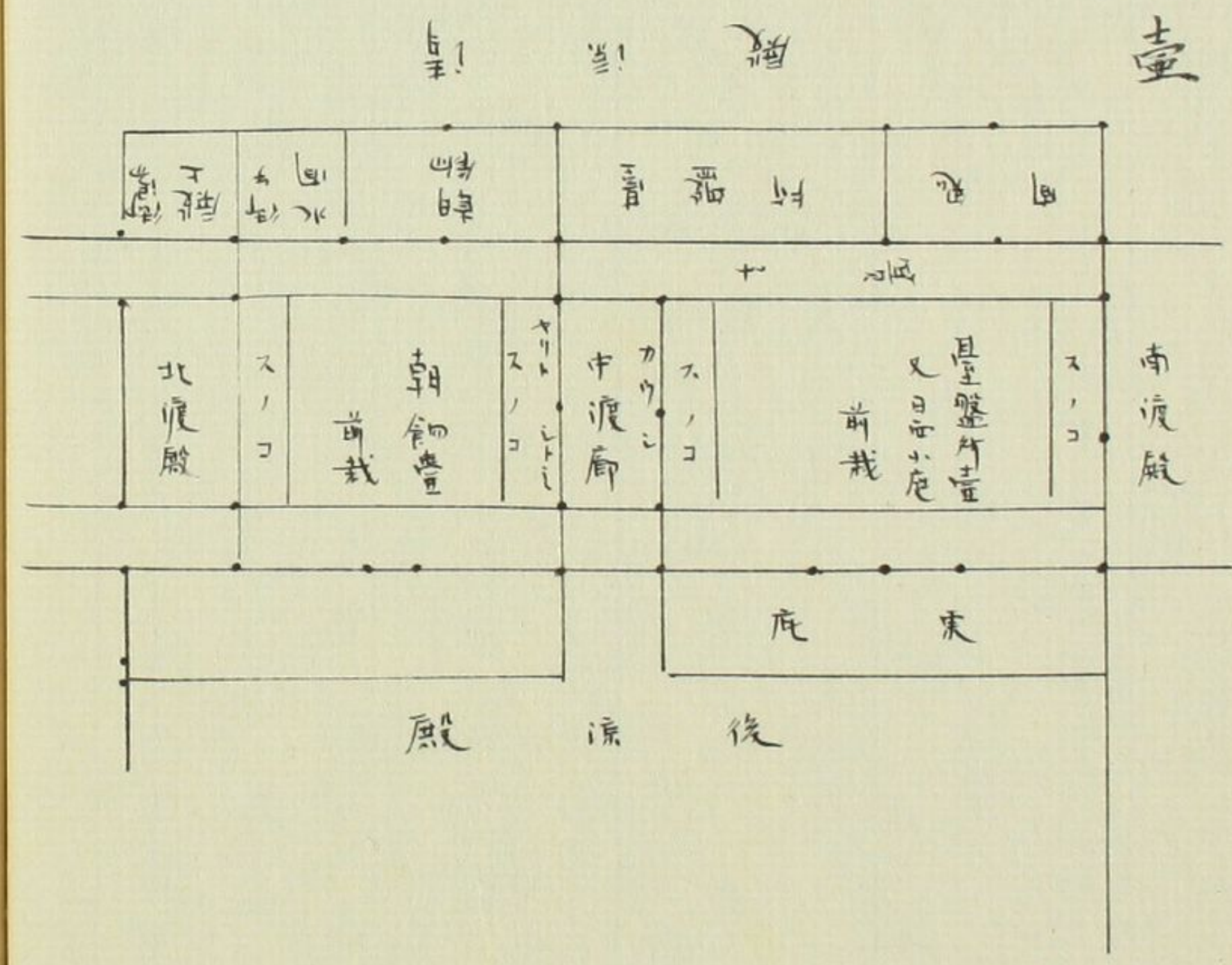
市掃ノ調度ノ中ニありシの管ノ履ノ画ノ管ノ捨ノ文ノ系ノ

の美ノ系ノ類ノ裏ノ種ノ要ノ抄ノにシてシるに

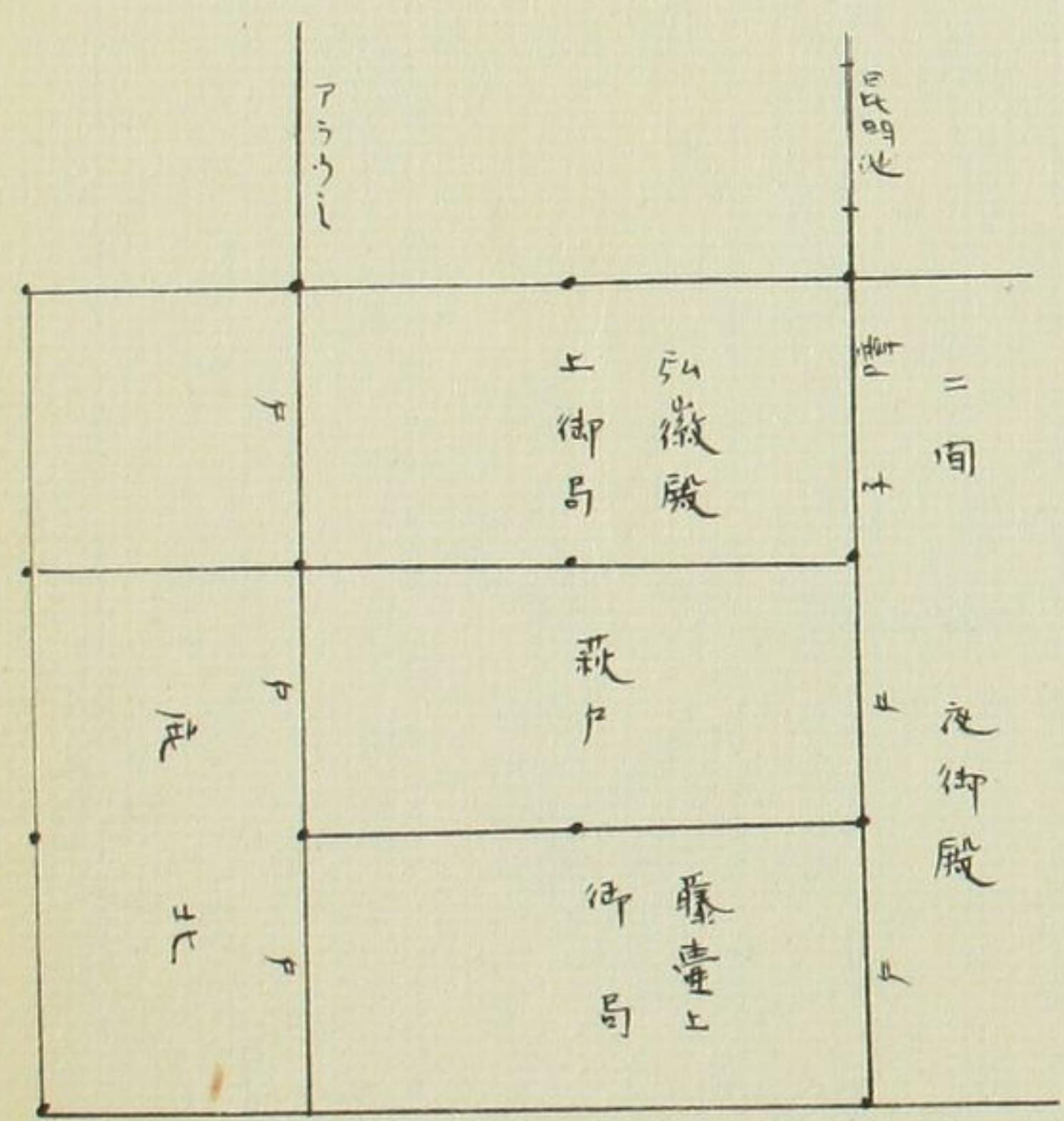


弘徽殿は朝成殿屋中の弘徽殿より西へ侍臣あり清涼殿の  
 ひろのまのりた作

清涼殿御壺



弘徽殿を初め、上のほうをねるも、そのまゝのまゝに  
 弘徽殿の上は、弘徽殿の屋敷より、そのまゝに  
 本館より、そのまゝに、其のまゝに弘徽殿より、そのまゝに  
 龍や、そのまゝに、其のまゝに、そのまゝに、そのまゝに、そのまゝに  
 のまゝに、そのまゝに、そのまゝに、そのまゝに、そのまゝに、そのまゝに













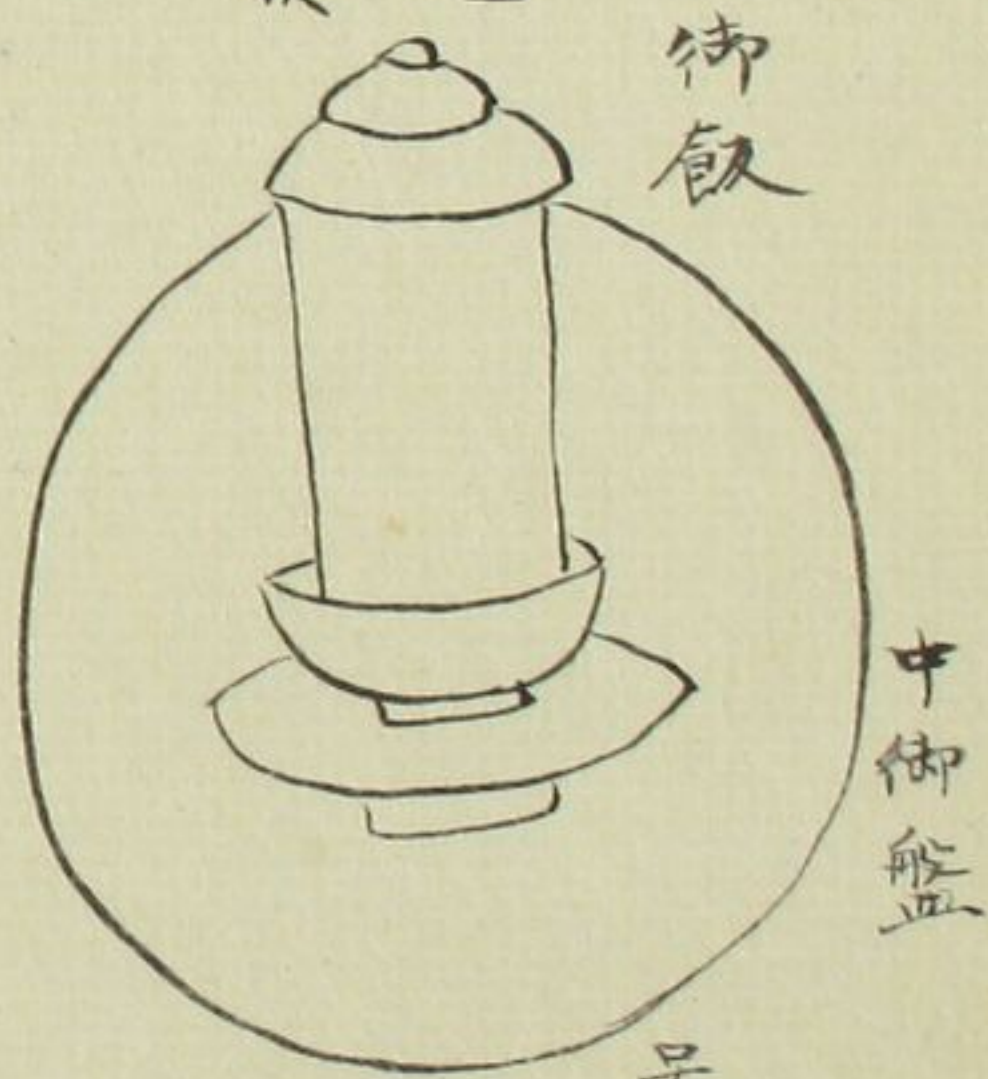




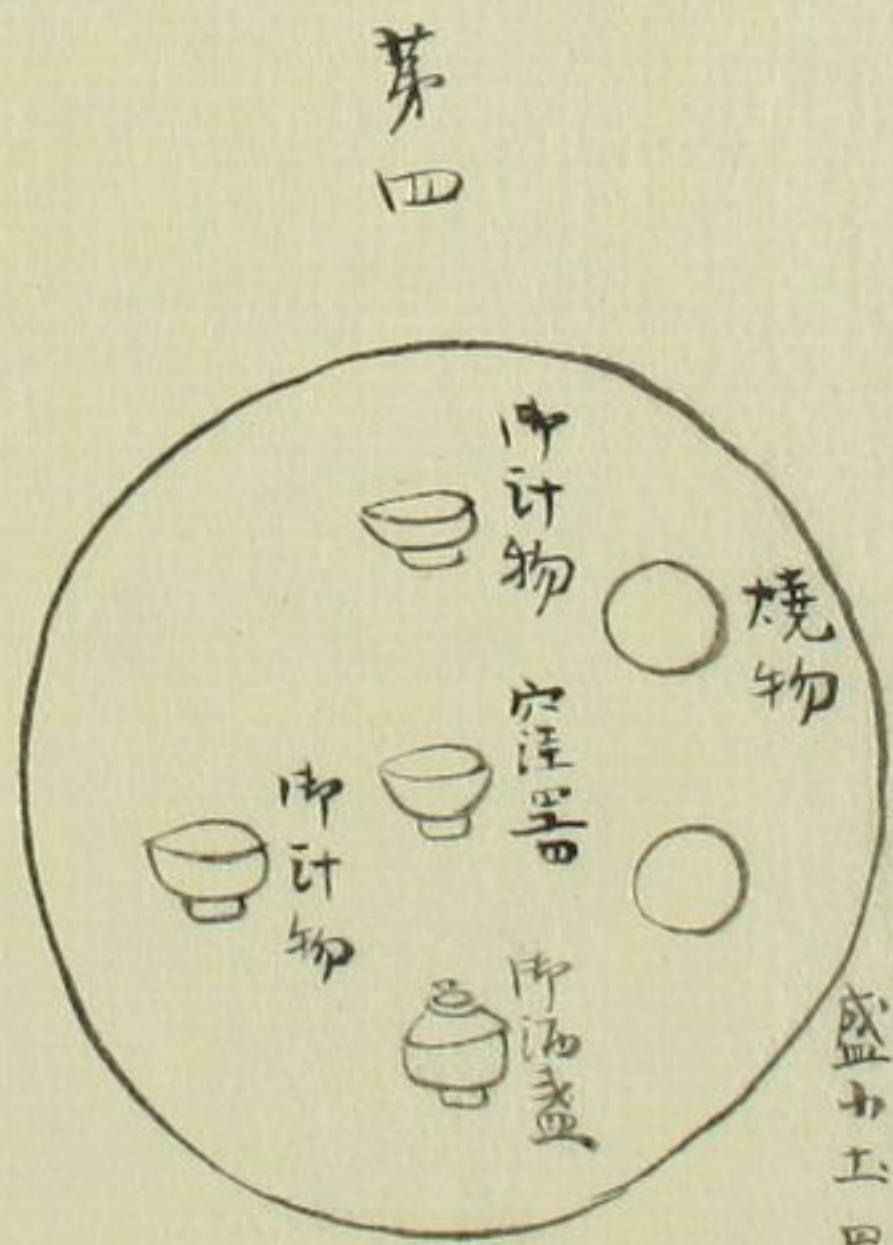
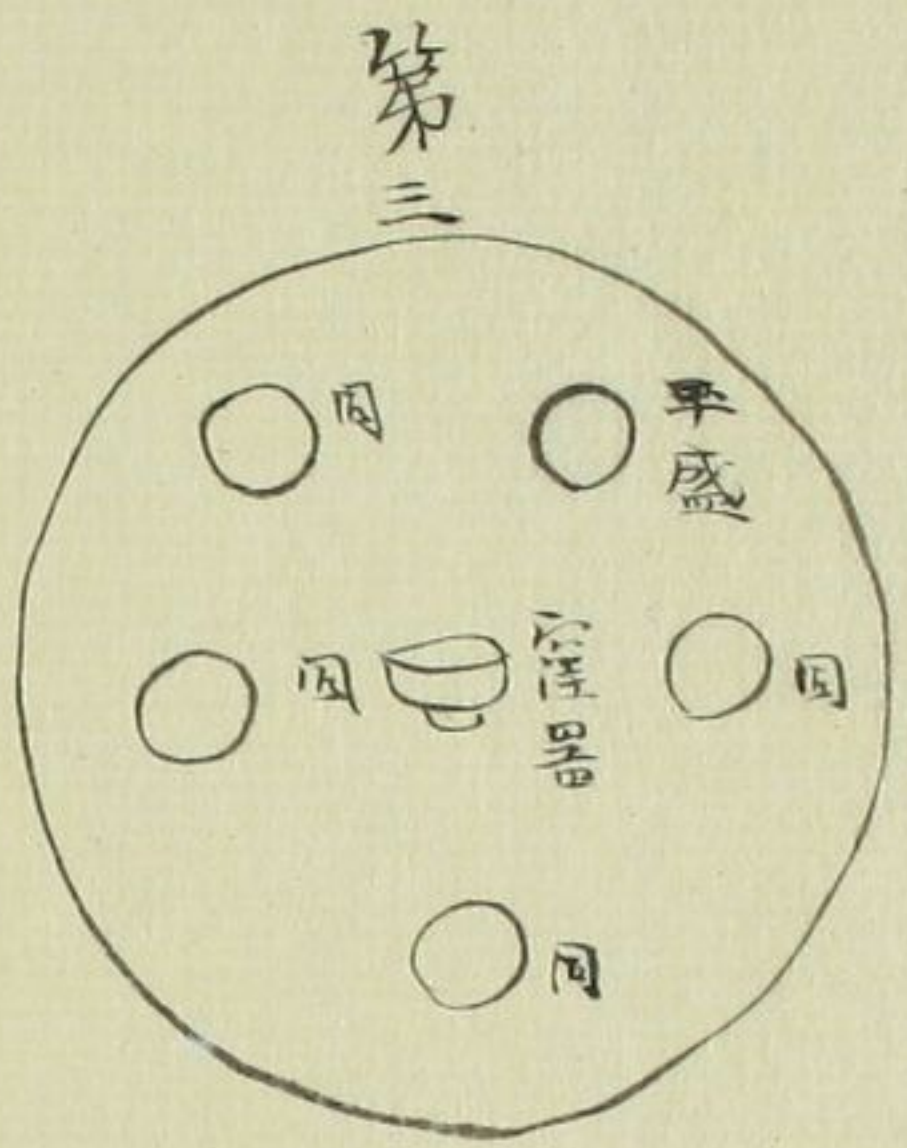




木銀匙  
第二  
足加足



号蓋盤



白二日一日起至七月  
醴酒  
海日送酒司獻之  
盛十五器

あゝの年の春坊ささりささり

五坊 日本書紀云神武天皇甲子年春正月壬子朔甲

寅五皇子神渟名川耳尊為皇太子云々

崇宸殿より御新屋本堂御江於中入り

七よりちりささりささりささりささり

所清書始り侍士者復す御ささりささりささりささり  
天皇康寧の御治中を治涼御江於中入り  
本所見たり但云皇は治涼御江於中入り  
昭陽合々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
治合々々を撤量合々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
ささりささりささりささりささりささりささりささり  
ささりささりささりささりささりささりささりささり

門城羅

朱雀大路

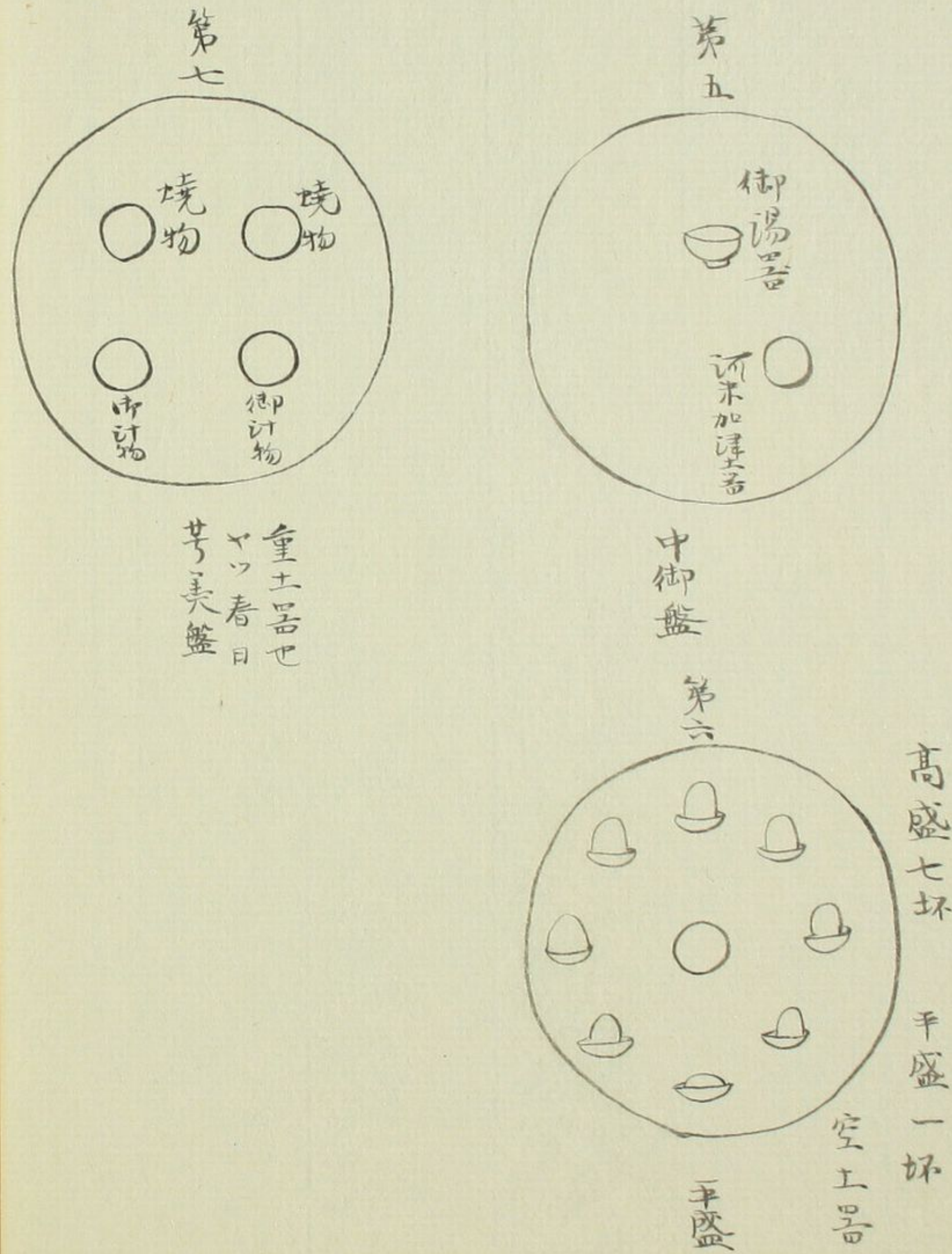
東鴻臚館

〇七八

鴻臚館 職負令云玄蕃頭一人掌佛寺僧尼名籍供  
 齋蕃客辭見燕饗送迎及在夷狄監當館舍謂鴻臚館也  
 事續日本後紀云承和六年八月辛酉以東鴻臚館地  
 二町元典藥寮為御藥園 河津抄云延曆遷都のころ  
 東西の大路に禮堂之而弘仁のころ鴻臚館を移して賜給法を降  
 以西鴻臚館地賜給園僧都其後七年朱雀大路に鴻臚館を建  
 置之韓館舍其の中

西鴻臚館

館中のこと同詳あり



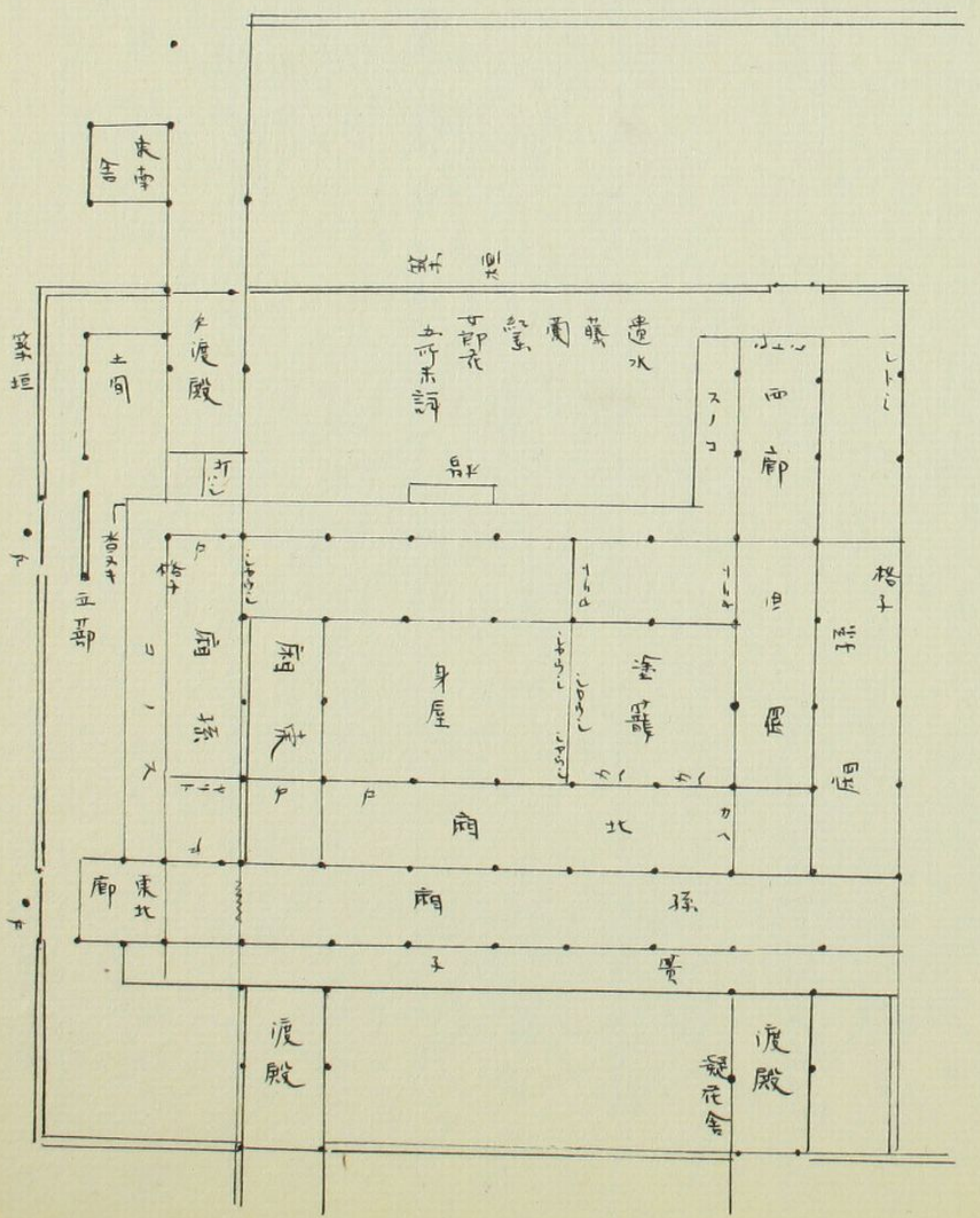
高盛七坏 平盛一坏

空上器

平盛

うらまふかき給ひて市子ありて心成りて年行なりて年也  
 奉り給ひて藤壺と云ふなり

藤壺 倭名類聚鈔云飛香舍 在弘微殿北  
 拾芥抄 云飛香舍 西一藤壺弘微殿西  
 已上六舍起南行于北  
 卯酉建之 此内疑華舍飛香舍不載弘仁  
 元三年六月廿七日藤壺者代々妻后元居所也  
 玉海云安  
 槐記云應保元年十二月十七日云  
 子三位香飛香舍  
 御装束 誓抄抄云藤壺懸蝦手木上古非蝦手木  
 欽近頃殊勝物也 西宮記云臨時近喜二年三月廿  
 日御飛香舍御覽藤花同天曆三年四月十四日於飛  
 香舍有藤花宴  
 飛香舍 藤壺









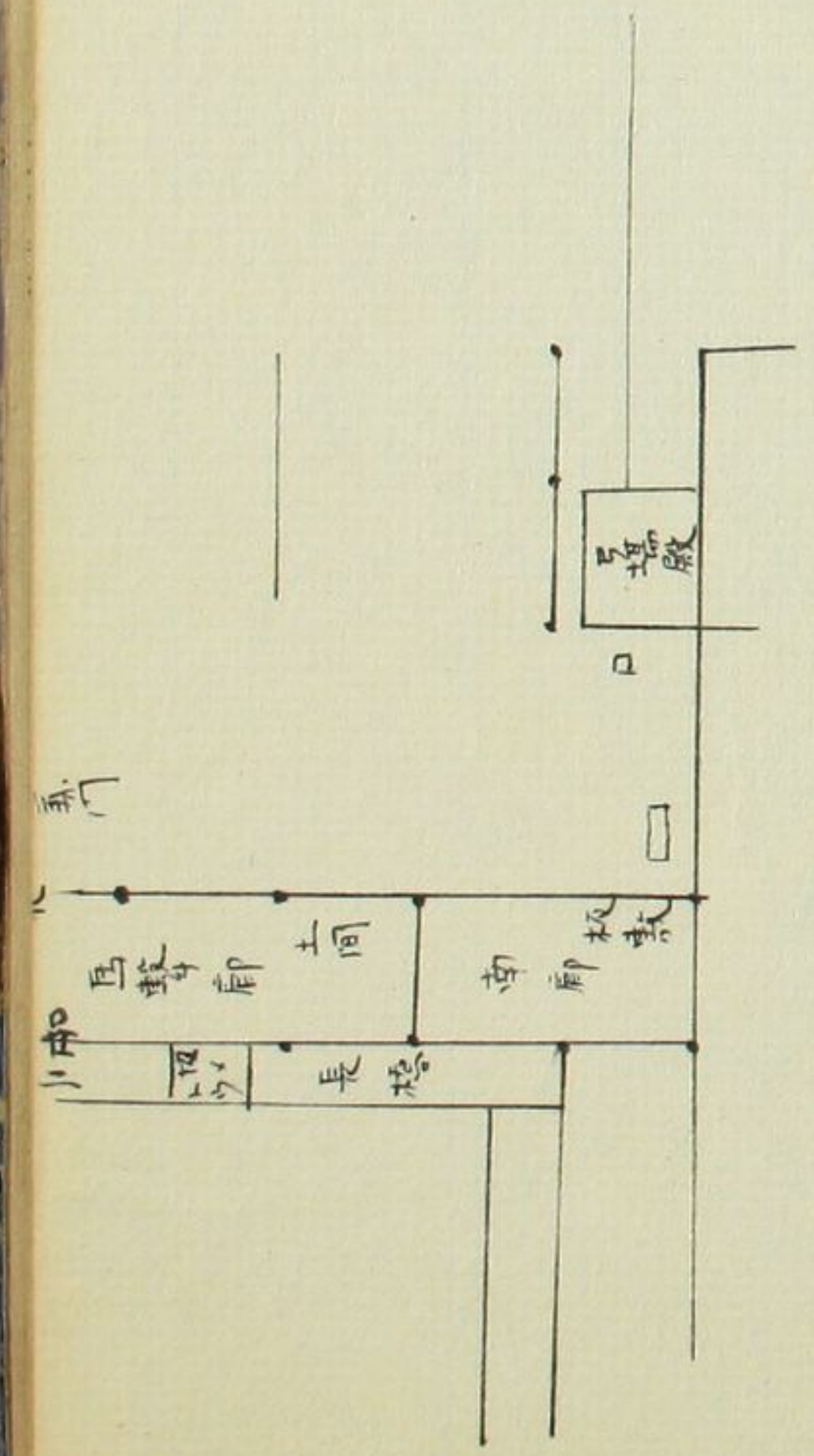
一 女流氏於御前加元服 新儀式云源氏皇子可加元服 西宮記云一女流氏元服御裝束同親王儀 但臨氏座在孫廂西北上

一とせの事宮乃中元服南殿よりありしと云ふありし  
 中より一取し一取しを給ふに所は此儀をさしとて教倉院  
 吏官御元服 續日本紀云和銅七年二月庚辰皇太子加元服祭未大赦天下 其儀新儀式可多記此抄  
 江左美あし子安し一畧に

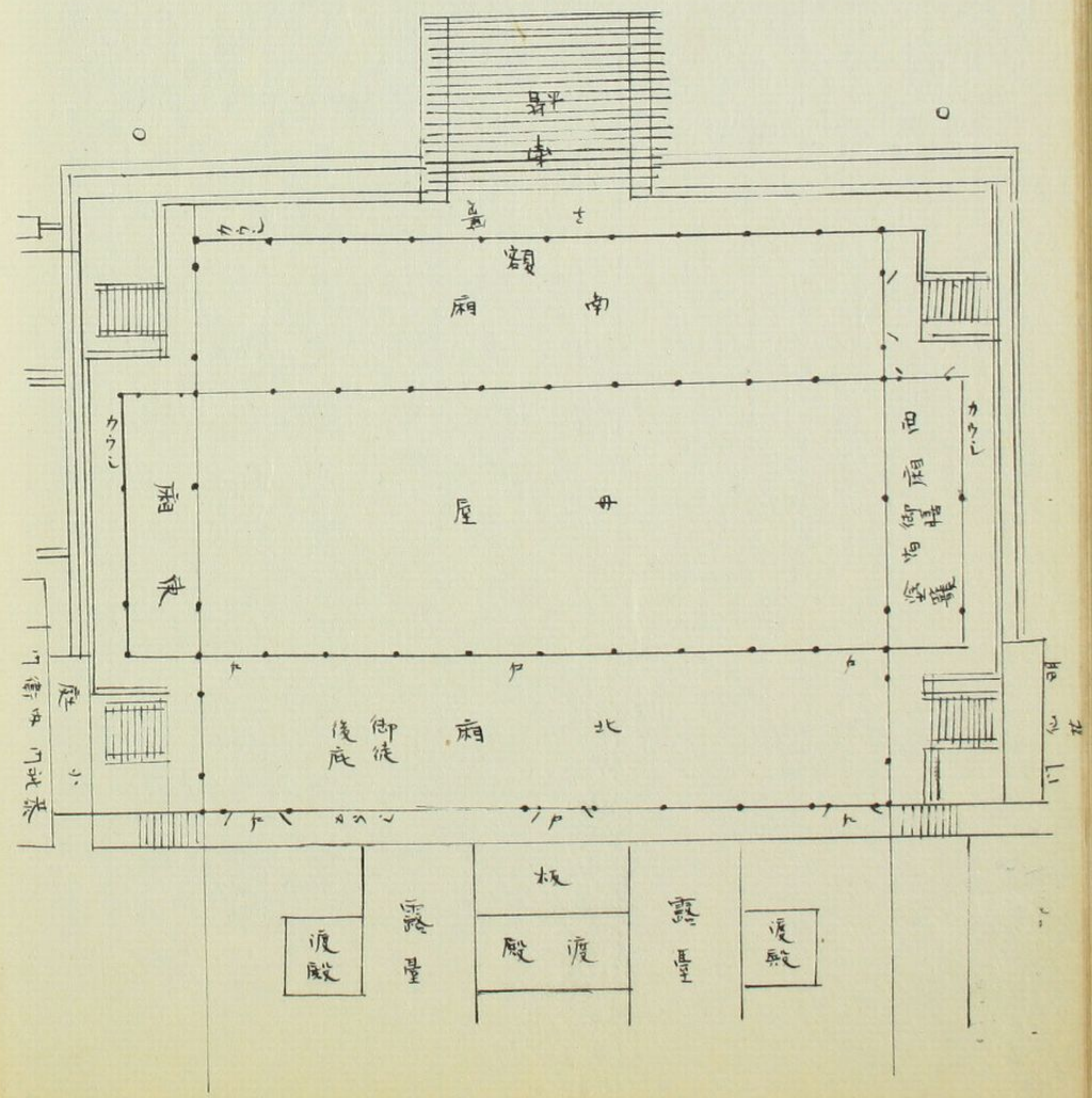
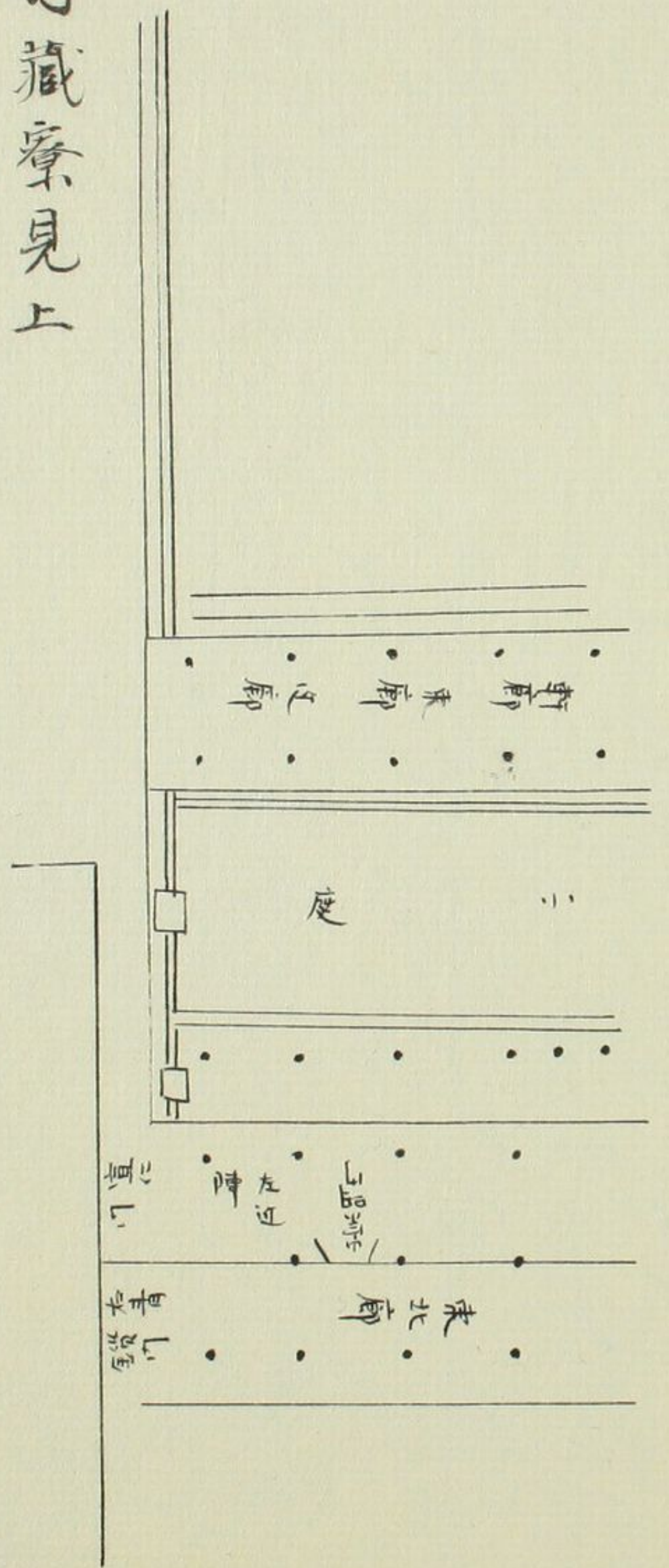
南殿紫宸殿 三代實錄云貞觀十三年二月十四日 天皇御紫宸殿視事不知以往皇帝每日中紫宸殿視政事仁壽以降絕此儀此日帝如聽政當時廢之 新儀式云皇太子加元服 當日所日祭上南殿供奉

南殿乃名續後紀嘉祥二年二月の條より多しなり  
 所々饗 新儀式云一 女流氏加元服 畧 内藏寮備辦饗膳饌給殿上侍臣或出御侍方有歌遊事王御以下至六位給祿有表又親王元服條云内藏寮辦酒饌王卿及殿上男女房或本亦設 奉家設獻物 西宮記云宜陽殿西廂設饗春興殿西庭立屯食三十具給祿男或奉 設内藏寮備酒饌賜王卿及殿上男女房或本亦設 奉家設獻物

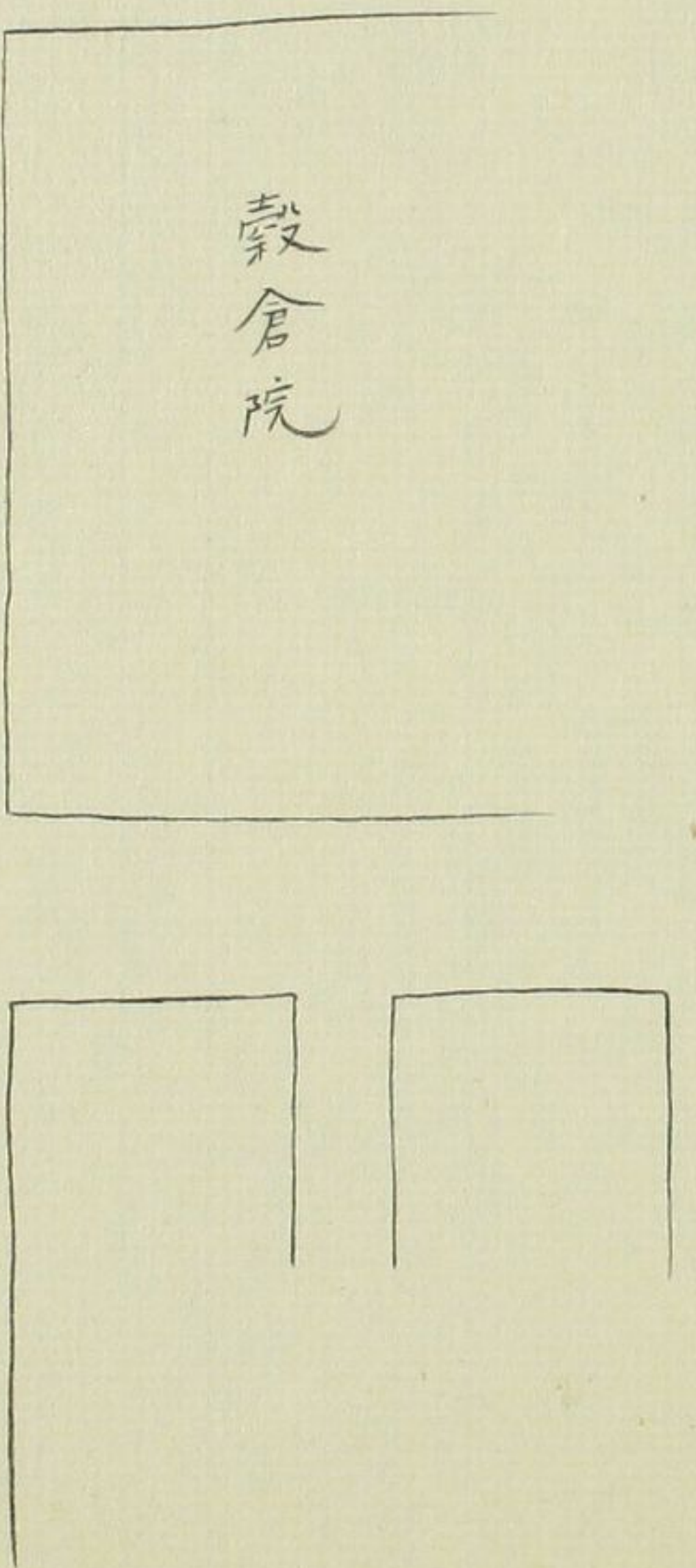
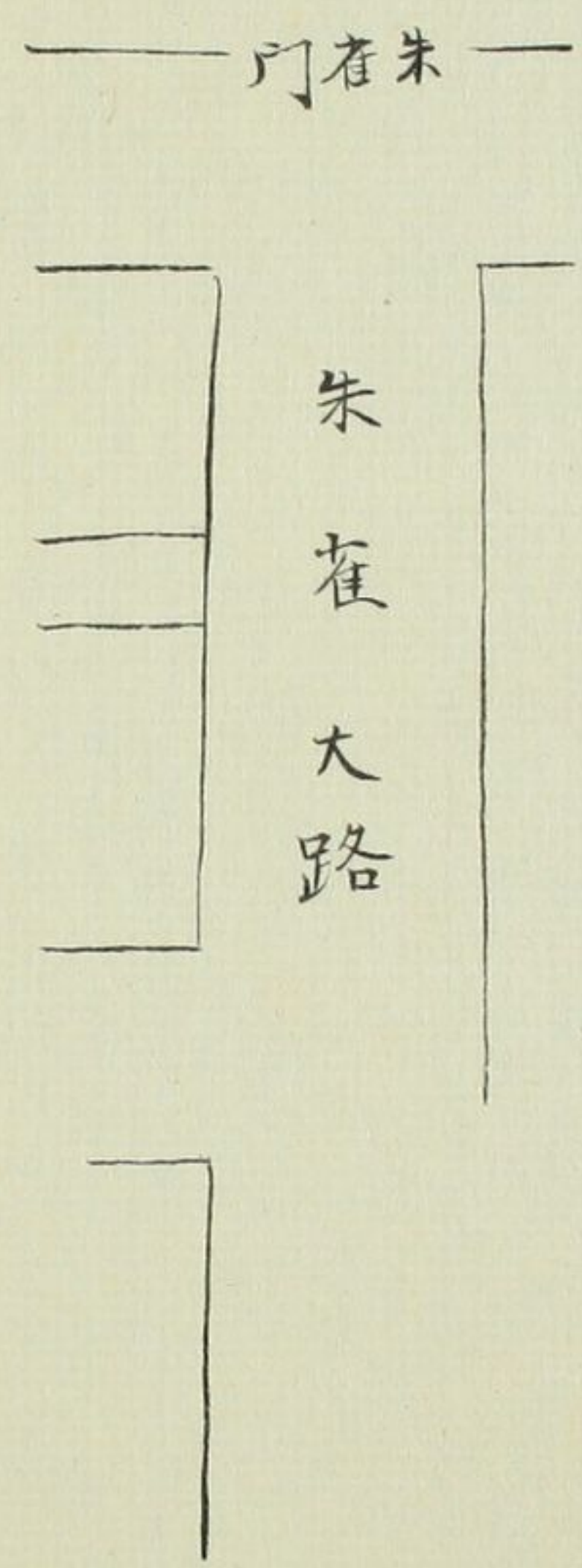
紫宸殿之圖



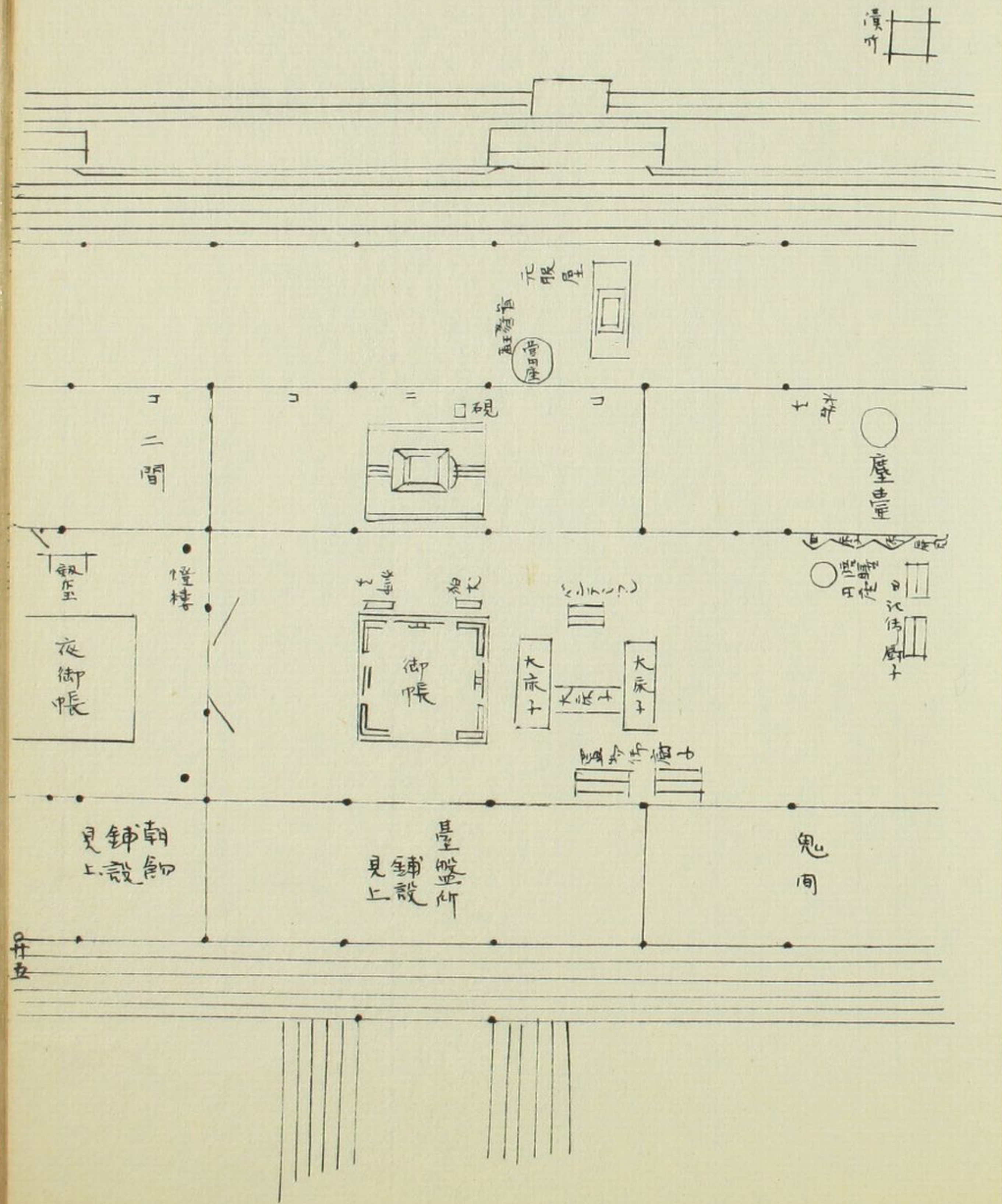
内藏寮見上  
 穀倉院 新儀式天皇奉賀上皇御筭云内藏寮穀倉院  
 院内給所一箇月定調樂行事人 西官記云穀倉院  
 在内藏寮西幾内諸國調錢諸國無任職田及没官田  
 太宰稻等諸庄物勤禁中饗有公卿及四位五位別當  
 預藏人 又云或抄云大同年中始置此院弘仁十二



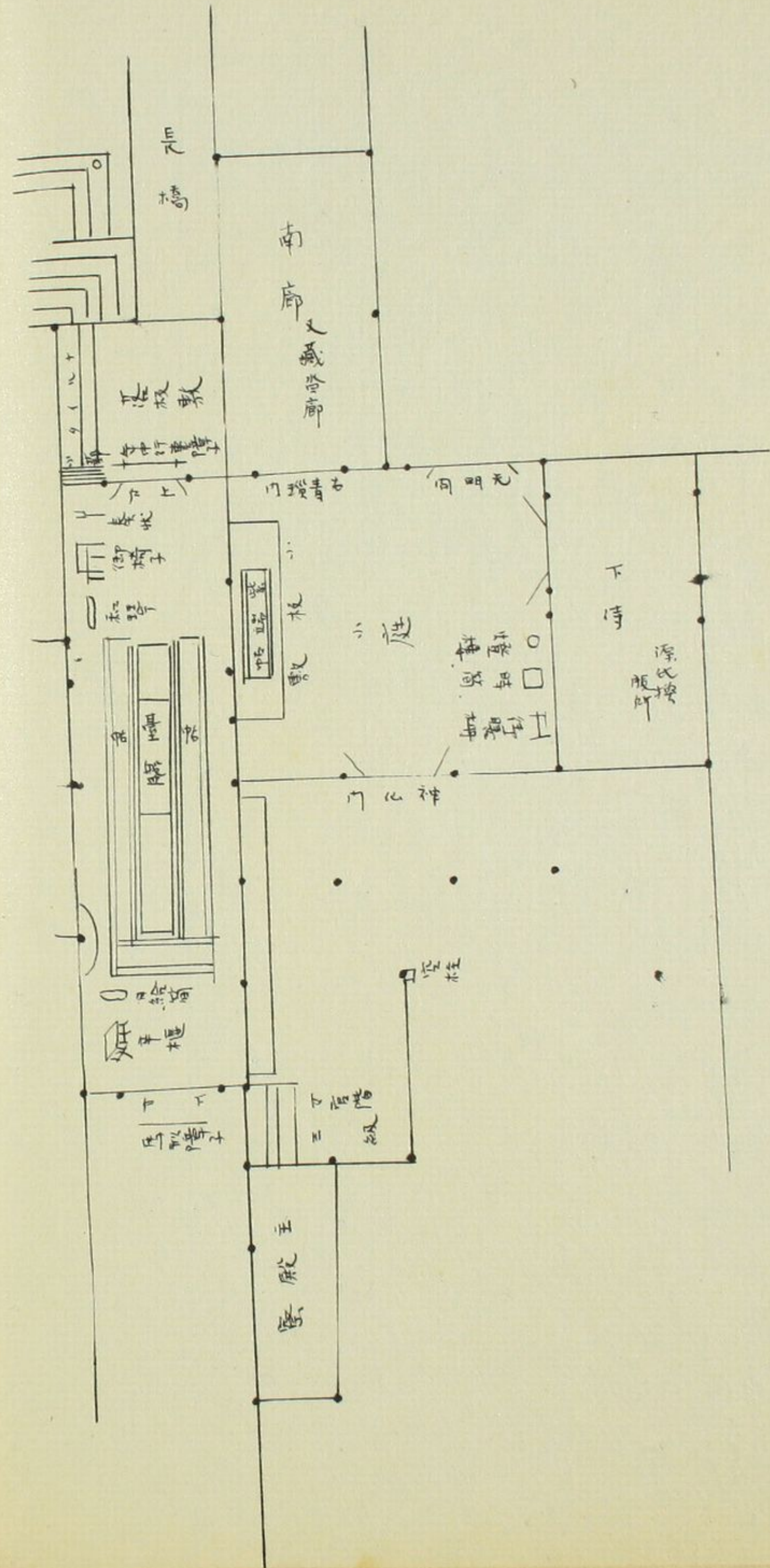
年公卿奏云々准據舊例運近江國綠江諸郡十萬斛  
 収穀倉院尋運越前國物使其代承和元年始充穀倉  
 院印一面續行善云云後紀外記師守記云貞治四年  
 四月五日今朝家君有同事予被渡穀倉院被搞茶初  
 度也院掌彈正忠延芳走舞一瓶及盃飲非無其真者  
 也宗左衛門入道賴惠調之三斤餘有之  
正倉院後人寓所也  
正倉院之詳  
 穀倉院在所因



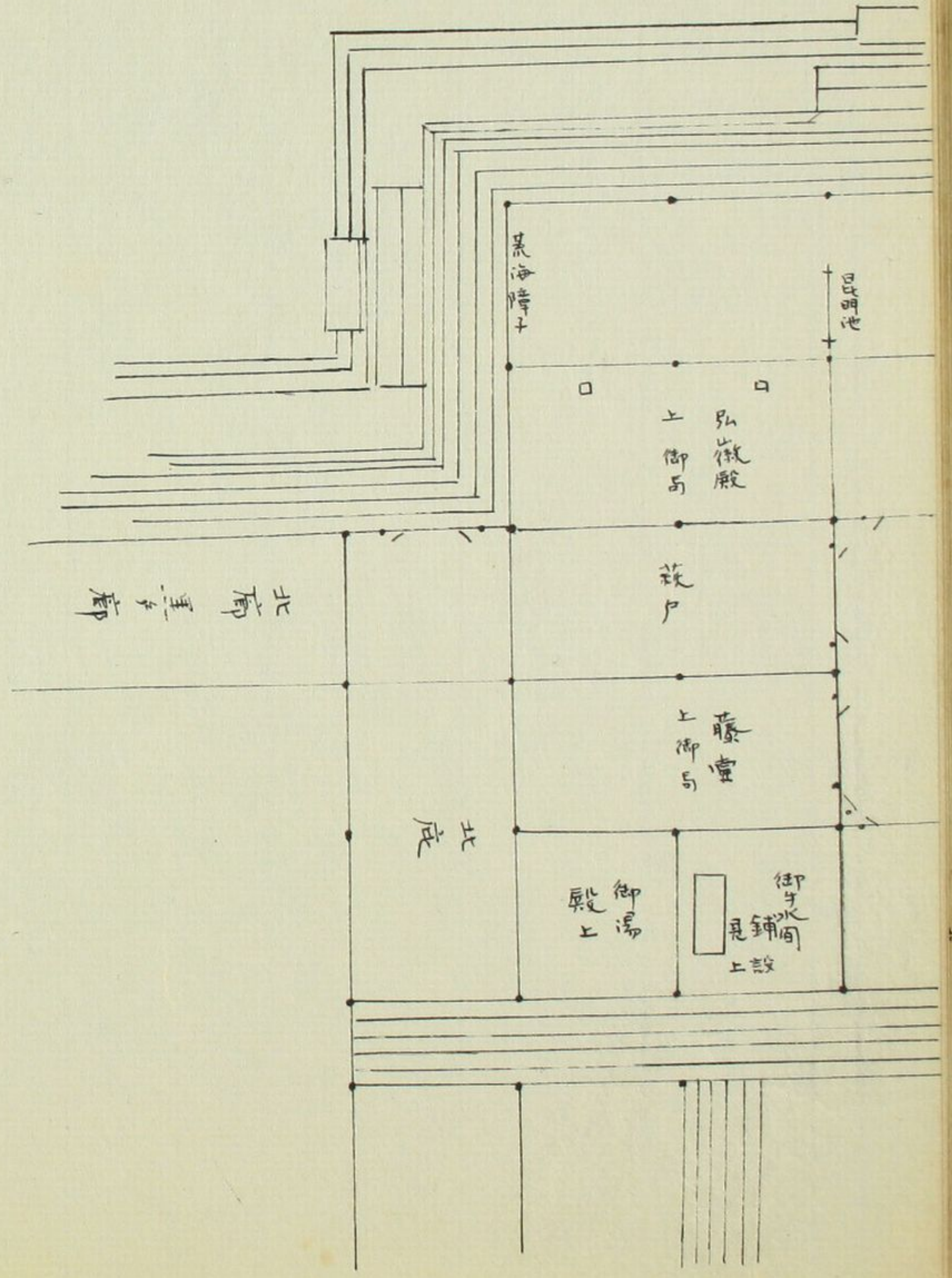
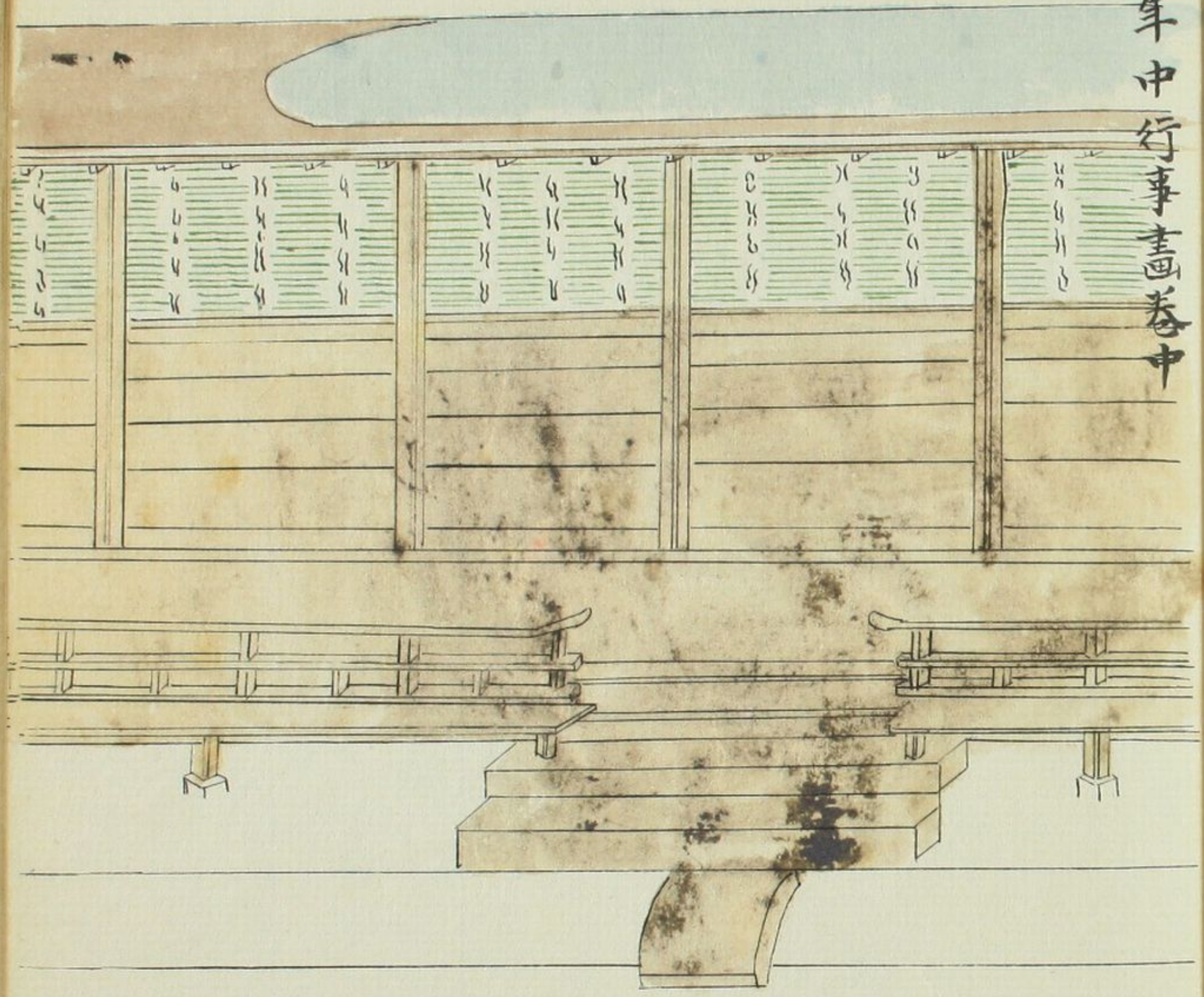
御座殿清涼殿又曰御殿中殿倭名類聚鈔云  
 清涼殿在板書拾芥抄云清涼殿中殿又云御  
 新儀式云源氏皇子可加元服先撤畫御座立倚子為  
 御座矣孫廂南第二間敷置并茵為加冠座其西南敷  
 菅圓座為冠者座西宮記云一世源氏元服裝束同



同親王儀但源氏座右孫廂西北上前置圓座其下置  
 理髮具入柳宮  
 清涼殿之圖付鋪設



年中行事畫卷中





倚子 延喜木工寮式云大倚子一脚 高一尺三寸長  
 二尺廣一尺五寸  
 料功釘十二隻 寸各長一分 膠一兩長功七人 中功八人  
 短功九人 小倚子一脚 高一尺三寸長一尺  
 料釘十二隻 寸各長一分 膠一兩長功五人 中功六人 短功七人 又  
 掃部寮式云凡御座者 署紫宸殿設黑柿木倚子行幸  
 赤漆床子 錦並敷 又云倚子茵一枚 長八寸厚二尺廣一尺 料  
 小所席一條 長二尺四寸 葉薦七尺黃帛一條 長八尺  
 廣七寸 五調布一條 長二尺九寸 細繩二丈長功二枚 中功一  
 枚 大車短功一枚 干新儀式云源氏皇子可加元服  
 先撤畫御座立倚子為御座 考云皇子倚子天皇を  
 神皇后馬廻つと給ふに下も廳座と倚子を角巾但 車室の  
 市倚子と櫛と或と櫛と用ふ也 給ふに大屋御言

さきの時源氏... 髪類又鬢... 一也源氏元服云... 塵袂... 梳髮... 左手見元... 諸家子第元服云... 腋袍自餘...

髪類又鬢 紀曰 角髮 西宮記  
 一也源氏元服云 土敷在 一云 畢中櫛具源氏出 服  
 塵袂 梳髮 江家次第 一人若若元服云 次理髮先取冠入 強  
 左手見元 抽巾子置用櫛巾中次解冠者 櫛角先 又  
 諸家子第元服云 次冠者 着自 庇 無 總 頭 無 夾 青色 扇  
 腋袍自餘 如恒着 糸 鞋 以上 腋 狹 衣 物 後 云 卷 云  
 さきの時源氏... 髪類又鬢... 一也源氏元服云... 塵袂... 梳髮... 左手見元... 諸家子第元服云... 腋袍自餘...















鶴子やうして初んまのしねははしりさうまのしり  
 さうまのしりさうまのしりさうまのしりさうまのしり  
 さうまのしりさうまのしりさうまのしりさうまのしり  
 さうまのしりさうまのしりさうまのしりさうまのしり

中門院内元招之圖







おひみき... 新儀式源氏皇子元服云内藏

寮辨備饗饌給殿上侍臣或出御侍方有歌遊事王卿  
已下至六位給祿有差 西宮記云天皇御侍倚子王  
卿已下候有御遊盃酒源氏候四位上王卿給祿考

初元元服の時と清涼殿... 酒饌と珍物源氏皇子元服  
の時と殿上を物とみ... 但し何柄盃の帝殿上出御あり

し也市盃の法... 又下の... 珍物又... 源氏

源氏... 一也源氏座次 西宮記一也源氏元服云源氏候四  
位上 政事要畧云吏部王記云延長八年八月廿九

日一也源氏等祇候疑無位間應服直衣若又疑殿上  
侍座者次 源氏被轉昇殿 彈正親王從容候氣色上曰一也  
源氏出仕公庭之事近年無其例仁和以前有安事須  
間遇彼時之人但昔嵯峨天皇始賜源氏姓欲使明朝  
臣對策詔曰若及第時賜三位當其對策時可叙六位  
則知不殊平人或賜六位再時山田春興亦奉詔欲對  
策未果本意天皇前明朝臣賜不對策春興守先鞠塵  
直衣所未知也又六位雖雜袍不能服直衣可相比完  
又座理應六位上雖然就五位上四位下得適軟抑須  
問先例九月八日辰時余詣左大臣宿桂芳巳刻依諸  
御議被定无位一也源氏座次可着四位下五位上  
考... 一也源氏の座次... 西

考... 一也源氏の座次... 西

官記より四位の上迄より五位の下迄迄と定むるもさうしる所  
始と終ありしと彦行もあす別勅よりしる所あり

市るものその之れ命婦しるその白大襖より市衣しる例のしる

祿 新儀式源氏皇子元服云加冠人應召翁上命婦

持祿給之拜舞其祿親王又親王元服條云女藏人

取祿給之或大襖一重御衣一襲大臣加白椽表御衣

退下舞蹈自仙華門罷出西宮記侍中

賜御馬新儀式見上又承平四年二月廿七日吏部王記云允

東贈馬鷹理髮女裝云是間引入纏頭女裝

明源氏於中務卿親王家元服畧

志ある給ふ

みまはるるみまはるるみまはるる

給祿 新儀式源氏元服云王卿以下至六位給祿有

差 西宮記親王元服云祿納言以上白襖親王因参

更衣乳母命婦紅襖掌侍命婦同尚侍白襖

侍中群要同之 考ふる源氏皇子の町山皇子

考ふる市前の所を給ふ

しる但しるを例のしる







同御青會



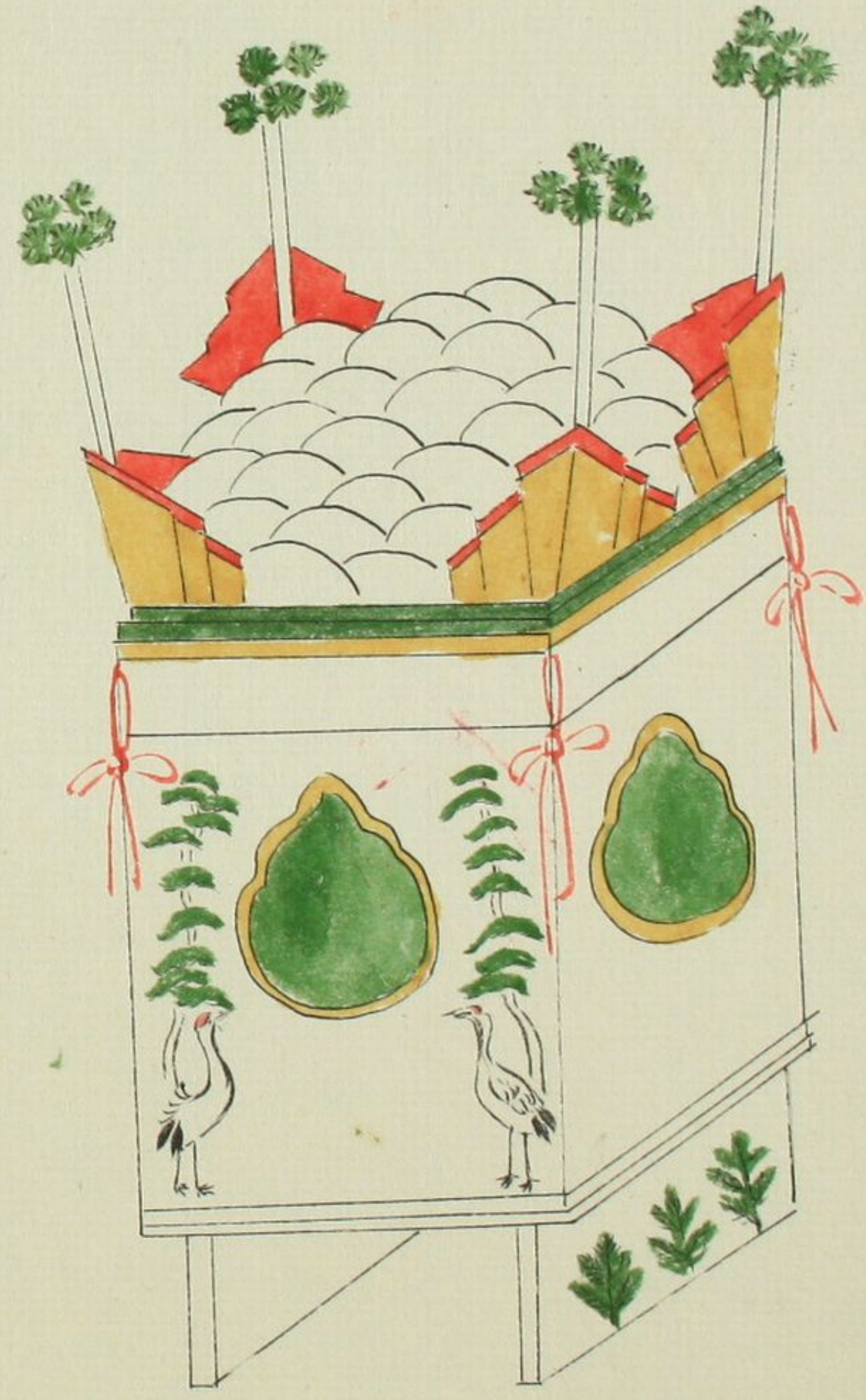
車中行事



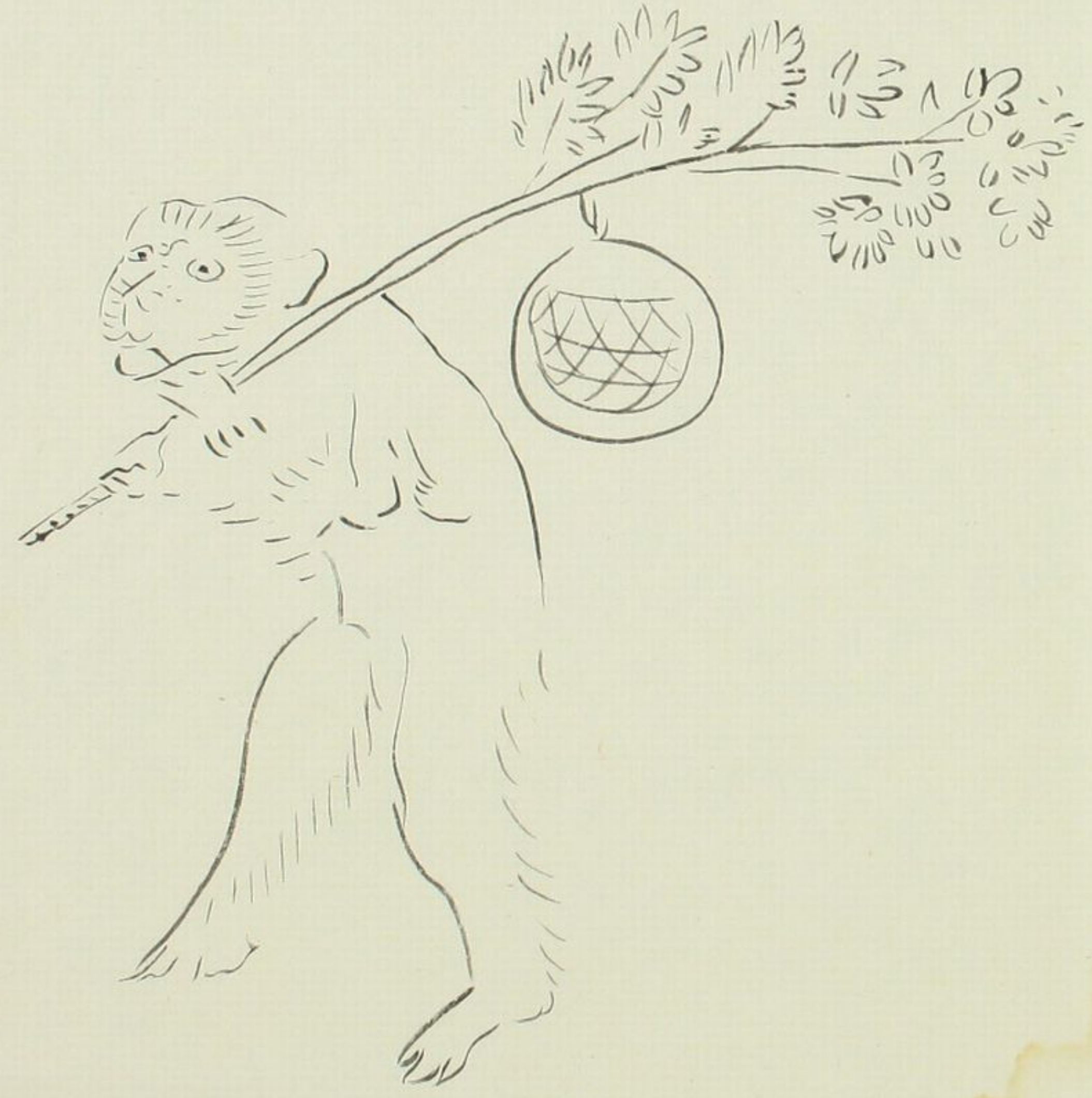
同



後三年公秋



梅尾  
鳥羽傳正



年中行事  
著  
歌  
改



梅尾高心寺  
什物  
鳥羽傳正



市きるきけはるかに じきりきまのえはたり初き  
可とちきらこころを むけはるきや

初えはるきをいふは 年中の事初合言しえは

前ち地言 君の代りしとて平をいひしは

いふははるき 又本抄元版 永久四年百音

え版 神祇伯顯仲ら せしむるのこころの事とく

はるき なるまに引きあつて 仲言の事

ゆふりしものひのはるの まるきはるの事とて

と條渡り進 あらまのこころのひをいふ

こころのひをいふ

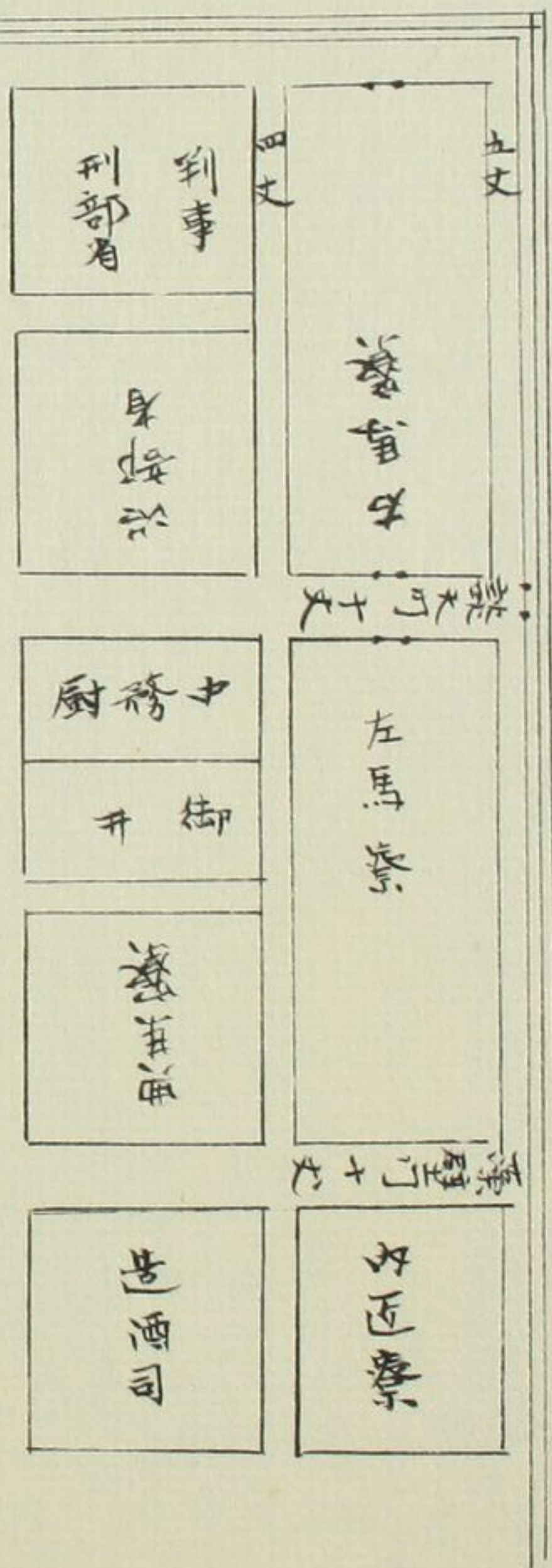
鬢 倭名抄云鬢涼酒切韻云鬢 音流和名 以祖来媛也

江家次第見上 経亮装束抄云 あらまのひをいふ





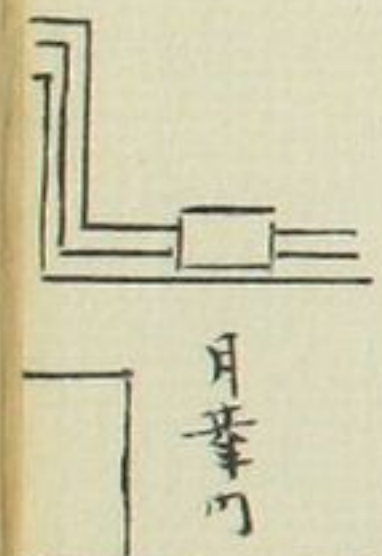
左馬寮之圖



藏人所 類聚國史云弘元年三月十日始置藏人  
 所 三代實錄云貞觀十八年七月十四日敕喚散  
 位大藏朝臣善行侍藏人所校合而書  
 又云元慶七年七月五日敕弘仁十一年以來至鷹

司鷹飼三十人犬三十牙食料每日宛彼司其中割鷹  
 飼十人犬十牙料充藏人所貞觀二年以後無置官人  
 雜事停廢鷹飼十人犬十牙料永以熟食充藏人所  
 拾芥抄云藏人所在校書殿有別當左大臣一人頭一  
 人預入八人出納三人中舍人六人有熟食年官進月  
 奏或云衆十二人有內官或所衆二十二入瀧口二十  
 二人或藏人八人五位二人或三人六人或五人是皆  
 職事也 行券曰中古頭二入 姓新藏人以上職事云非藏人

校書殿内





その秋あまのりあまのり海老の表まゝと珍あまのり  
よふたのりいりまゝと珍あまのり

嫁娶 戸令云凡男十五女年十三以上聽婚嫁云々

そのまゝと珍あまのり  
婚嫁の年百姓の存り利をいり  
王公の御給る

母中やまの所のあまのりのく

御息所 古今和歌集云二條后の東宮の御息所を

まゝと珍あまのり  
女中更夜皇子をいひの海まゝ

いひを珍あまのり  
又御息所といふも御息所人解あまのり

さゝの殿を修理職まゝと珍あまのり  
宣旨のりといふあまのり

あまのり

修理職 延喜中務式云修理職 三百九十人 史生八  
人長上

十人將領 廿二人工部 十人仕 又式部式云凡修  
丁二百廿七人飛驒 工六十三人

理長上木工五人 檜皮工一人 瓦工二人 石灰工一人

將領二十二人 並預秀云々 選り職也修理職

弘仁のり 陽明門のり

内匠寮 令外職員令集解云釋云神龜五年七月廿一

日新置内匠寮管中務省云々 延喜中務式云内匠

寮 一百卅九人 頭一人 助一人 大九一人 十九二人 大

一人 番上工 西宮記臨時六云二十九日内匠寮徹夜

御帳替御屏風 北山抄内宴云内匠寮参入立軟障

臺於取々 雅亮装束抄云おと

あまのり ちやうとあまのり

あまのり あまのり

あまのり あまのり



